別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｻｸｶﾞｸｴﾝ 学校法人　佐久学園	
フリガナ 大学の名称	ｻｸﾀﾞｲｶﾞｸ 佐久大学　(Saku University)	
大学本部の位置	長野県佐久市岩村田2384番地	
大学の目的	高等教育にふさわしい大学として、学術を教授研究し、幅広い視野と豊かな教養を育み、道徳的及び応用的能力を展開させることによって、社会に貢献し得る有為な人材を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	ケアの科学を基礎に保健・福祉臨床、ビジネス、公務、地域等の領域で多様かつ高度なケア・ニーズに対応し、専門職として、事業・組織・実践等の新たな発展を図ることのできる高度なケア人材を育成することを目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
人間福祉学部 [Faculty of Human and Social Welfare]							
人間福祉学科 [Department of Human and Social Welfare]	4	70	3年次 10	300	学士（社会福祉学） 【Bachelor of Social Welfare】	令和3年4月 第1年次 令和5年4月 第3年次	長野県佐久市岩村田2384番地
計		70	3年次 10	300			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	令和3年4月　短期大学の学科の専攻課程の設置（令和2年7月届出済） 佐久大学信州短期大学部 福祉学科（50）　→　介護福祉専攻　(25) 子ども福祉専攻（25）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実習	計	
人間福祉学部 人間福祉学科	112 科目	31 科目	8 科目	151 科目	131　単位

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		人	人	人	人	人	人	人
新設分	人間福祉学部　人間福祉学科	9 (6)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	20 (17)	1 (1)	65 (33)
新設分	計	9 (6)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	20 (17)	1 (1)	― (―)
既設分	看護学部　看護学科	11 (11)	7 (7)	7 (7)	8 (8)	33 (33)	6 (6)	41 (41)
既設分	計	11 (11)	7 (7)	7 (7)	8 (8)	33 (33)	6 (6)	― (―)
	合　計	20 (17)	11 (11)	13 (13)	9 (9)	53 (50)	7 (7)	― (―)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
		人	人	人	
	事務職員	21 (18)	2 (1)	23 (19)	
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	1 (1)	3 (2)	4 (3)	
	その他の職員	1 (1)	5 (5)	6 (6)	
	計	23 (20)	10 (8)	33 (28)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	0 ㎡	21,009 ㎡	0 ㎡	21,009 ㎡	佐久大学信州短期大学部（必要面積1,000㎡）と共用 運動場 借用面積：2,639㎡ 借用期間：30年 駐車場 借用面積：3,468㎡ 借用期間：30年
	運動場用地	0 ㎡	37,230 ㎡	0 ㎡	37,230 ㎡	
	小計	0 ㎡	58,239 ㎡	0 ㎡	58,239 ㎡	
	その他	0 ㎡	16,787 ㎡	0 ㎡	16,787 ㎡	
	合計	0 ㎡	75,026 ㎡	0 ㎡	75,026 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	3,363 ㎡ (3,363 ㎡)	10,614 ㎡ (10,614 ㎡)	456 ㎡ (456 ㎡)	14,433 ㎡ (14,433 ㎡)	佐久大学信州短期大学部（必要面積1,600㎡）と共用

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	16 室	14 室	3 室	1 室 （補助職員 0人）	0 室 （補助職員 0人）	大学全体 情報処理学習施設は語学学習施設を兼ねる

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人間福祉学部	23 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間福祉学部	29,935〔4,039〕 (29,935〔4,039〕)	30〔6〕 (30〔6〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	1,007 (1,007)	－ (－)	－ (－)	大学全体での共用分27,482冊
	計	29,935〔4,039〕 (29,935〔4,039〕)	30〔6〕 (30〔6〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	1,007 (1,007)	－ (－)	－ (－)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	443.52 ㎡	71	57,150	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	654 ㎡	ゴルフ練習場	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	－ 千円	－ 千円	図書購入費は、電子ジャーナル、データベース、その他の経費（運用コストを含む。）を含む。
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	16,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	100,000千円	29,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	－ 千円	－ 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,330千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	佐久大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	看護学部 看護学科	4	90	－	360	学士（看護学）	1.00	平成20年度	長野県佐久市岩村田2384番地	
	看護学研究科 看護学専攻	2	10	－	20	修士（看護学）	0.60	平成24年度	長野県佐久市岩村田2384番地	

既設大学等の状況	大学の名称	佐久大学信州短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	福祉学科	年 2	人 50	年次人 －	人 100	短期大学士（福祉）	倍 0.48	平成14年度	長野県佐久市岩村田2384番地	
附属施設の概要		該当なし								

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基盤教育科目	ひと・生命の広がり	人間関係とコミュニケーション	1前		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		信仰と文化	1後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ケアと人権	1前	1			○						1			
		足と健康　基本	1前		1		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同(一部)
		人間存在と世界観	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		宇宙と生命の起源	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		小計(6科目)	－	1	8	0	－			0	0	0	1	0	兼8	
	ひとと文化の多様性	国際事情と社会貢献	1前		1		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		多文化理解	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		ジェンダー論	1･2･3･4前		1		○					1				
		文学	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		芸術学	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		アジア事情	1･2･3･4前		1		○					1			兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計(6科目)	－	0	6	0	－			0	0	2	0	0	兼6	
	ひとと社会生活	信州・佐久学	1前	1			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		消費と経済活動	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		契約と社会のルール	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		ボランティア・住民活動論	1･2･3･4後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		個と集団	1･2･3･4前		1		○					1				
		小計(5科目)	－	1	5	0	－			0	0	1	0	0	兼5	
	学びと自己変容	表現技法Ⅰ	1前	1				○							兼2	
		野外活動論	1･2･3･4前		1		○								兼1	※演習
		災害ボランティア	2･3･4前		1		○					1				※演習
		入門演習	1前	2				○		3	1	4	1			
		CBL実習Ⅰ	1前	2					○	1	1	3	1			※演習
		CBL実習Ⅱ	1通		1				○	1	1	3	1		兼1	
		小計(6科目)	－	5	3	0	－			3	1	4	1	0	兼4	
	ひとと情報	コンピュータの基礎演習	1前	1				○							兼1	
		情報管理法	2前		1			○							兼1	
		小計(2科目)	－	1	1	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
	ひとと世界	英語Ⅰ	1前	1				○							兼1	
		英語Ⅱ	1後	1				○							兼1	
		中国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		韓国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		韓国語Ⅱ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		医療・ケア英会話	3･4前			1		○							兼1	
		医療・ケア中国語	3･4前			1		○							兼1	
		小計(8科目)	－	2	2	4	－			0	0	0	0	0	兼3	
専門科目	基礎科目Ⅰ	ヒューマンケア概論Ⅰ	1後	2			○			1						
		生命倫理	1後	2			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		佐久の医療とケアの歴史	1前	1			○								兼1	
		生活習慣と健康	1前		2		○								兼1	
		食と健康	1後		2		○								兼1	
		運動と健康Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼1	※講義
		運動と健康Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼1	※講義
		小計(7科目)	－	5	8	0	－			1	0	0	0	0	兼8	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	基礎科目Ⅱ	ヒューマンケア概論Ⅱ	2前	2			○			1					
		社会福祉の歴史	2前	2			○							兼1	
		社会保障論Ⅰ	1後	2			○			1					
		社会福祉論	1前	2			○			2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		社会福祉法制論	2前	2			○			1					
		ソーシャルワーク入門	1後	2			○						1		
		地域福祉論Ⅰ	1後	2			○			1					
		ケアワーク論	2前	2			○							兼1	
		ヒューマンケア基礎実習	1後	1					○	1	1	3			
		ケアワーク演習・実習	2後	2					○	1	1	3		兼1	※演習
		小計（10科目）	－	19	0	0	－			6	1	5	1	0	兼2
	基礎科目Ⅲ	法学（日本国憲法含む）	1･2後		2		○							兼1	
		経済学	2前		2		○			1					
		心理学	1後		2		○							兼1	
		社会学	1後		2		○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		家族社会学	1･2後		2		○					1			
		生活学原論	2後	2			○			1					
		医学概論	2前	2			○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		基礎統計法	2前		2		○							兼1	
		小計（8科目）	－	4	12	0	－			2	1	1	0	0	兼6
	基幹科目Ⅰ	高齢者福祉論Ⅰ	1後	2			○			1					
		高齢者福祉論Ⅱ	2後		2		○			1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		障害の福祉学Ⅰ	1後	2			○							兼1	
		障害の福祉学Ⅱ	2後		2		○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		児童福祉論Ⅰ	1後	2			○				1				
		児童福祉論Ⅱ	2後		2		○				1			兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		女性福祉論	2後		2		○							兼1	
		貧困の福祉学Ⅰ	1後	2			○			1					
		小計（8科目）	－	8	8	0	－			3	2	1	0	0	兼3
	基幹科目Ⅱ	ヒューマンケア調査論	2後	2			○				1	2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ヒューマンケア調査実習	3前		2				○		1	3			
		ヒューマンケア情報論	2後		2		○							兼1	※演習
		データ解析法	2後		2			○						兼1	※講義
		質的研究法	3前		2		○			1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ･共同(一部) ※演習
		ソーシャルワーク論Ⅰ	2前	2			○					1			
		ソーシャルワーク論Ⅱ	2後	2			○					1			
		ソーシャルワーク論Ⅲ	3前		2		○					1			
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	2				○		2	1	2	1		兼1
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後		2			○		2	1	2	1		兼1
		小計（10科目）	－	8	12	0	－			2	2	6	2	0	兼3

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	基幹科目Ⅲ	看護ケア論	2前	2			○								兼2 オムニバス
		福祉臨床論	3前		2		○								兼1
		発達心理学	2前		2		○								兼1
		社会保障論Ⅱ	2前		2		○			1					
		保健医療福祉制度論	2後		2		○			1					
		福祉サービス論	2前	2			○			1					
		国際福祉論	2後		2		○					1			兼1 オムニバス
		地域保健学	3前		2		○								兼1
		精神医学Ⅰ	3前		2		○								兼1
		リハビリテーション論	2前		2		○								兼1
		ヘルス・プロモーション論	2後		2		○								兼1
		貧困の福祉学Ⅱ	2後		2		○			1		1			オムニバス ※演習
		多職種連携	2前		1		○								兼2 共同
		司法福祉論	2前		2		○								兼1 ※演習
		ケア福祉行財政論	3後		2		○								兼1
		生活援助学	2前	2			○								兼3 オムニバス ※演習
		ソーシャルワーク論Ⅴ	4前		2		○								兼1
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前		2			○		2	2	2			兼1
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後		2			○		2	2	2			兼1
		小計（19科目）	－	6	31	0	－			5	2	3	0	0	兼17
	発展科目Ⅰ（福祉臨床教育群）	児童養護論	3前		2		○				1				
		臨床心理学	3前		2		○								兼1
		老年心理学	3後		2		○			1					※演習
		家族臨床学	3後		2		○								兼1
		老年学	2後		2		○								兼1
		障害学	3前		2		○								兼1
		認知症ケア論Ⅰ	3前		2		○			1					兼2 オムニバス・共同(一部) ※演習
		リスクマネジメント論	3後		1		○					1			兼1 オムニバス
		ソーシャルワーク論Ⅳ	3後		2		○				1				
		精神保健ソーシャルワーク論	3前		2		○			1					※演習
		小計（10科目）	－	0	19	0	－			3	2	1	0	0	兼7
	発展科目Ⅱ（医療福祉教育群）	医療ソーシャルワーク論	3前		2		○								兼1
		医療支援ネットワーク論	3後		1		○					1			※演習
		認知症ケア論Ⅱ	3後		2		○								兼2 オムニバス
		ターミナルケア論	3後		1		○								兼1
		精神保健学Ⅰ	3前		2		○								兼1
		精神保健学Ⅱ	3後		2		○								兼1
		精神保健福祉論Ⅰ	2後		2		○				1				※演習
		精神保健福祉論Ⅱ	3前		2		○				1				※演習
		カウンセリング	3後		1		○								兼1
		小計（9科目）	－	0	15	0	－			0	1	1	0	0	兼6

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	発展科目Ⅲ（生活環境教育群）	社会環境ケア論	3前		2		○			1					兼1 オムニバス
		住環境ケア論	3後		2		○			1					
		ケア環境デザイン学	3後		2		○								兼2 オムニバス
		生活支援デザイン学	3前		2		○			1					※演習
		福祉テクノロジー	3前		2		○								兼1
		ケアのコミュニティ学	3後		2		○			1					
		地域福祉論Ⅱ	2後		2		○			1	1				オムニバス
		健康まちづくり論	3後		2		○					1			兼1 オムニバス
		小計(8科目)	－	0	16	0	－			2	1	1	0	0	兼7
	発展科目Ⅳ（マネジメント教育群）	福祉公共政策論	3前		2		○								兼1
		ケア財源・負担論	3後		2		○			1					
		自治体福祉論	3前		2		○			1					
		病院・施設管理論	3後		2		○			1					
		経営学	3前		2		○								兼1
		地域・プレメディカル産業論	3後		2		○								兼1
		非営利組織論	2後		2		○					1			
		ソーシャル・ビジネス論	3前		2		○					1			※演習
		マーケティング論	3後		2		○								兼1
		小計(9科目)	－	0	18	0	－			3	0	1	0	0	兼4
	展開科目	社会福祉原論	3前	2			○			1					
		地域包括ケア論	4前		1			○							兼1 ※講義
		災害福祉論	4前		2		○					1			
		ケア労働・職業論	4後		2		○			1					
		ヒューマンケア専門演習Ⅰ	3前	2				○		8	4	6			
		ヒューマンケア専門演習Ⅱ	3後	2				○		8	4	6			
		CBL総合演習・実習	3後～4前		2				○	3	1	2			※演習
		卒業課題研究	4通	4				○		8	4	6			
		小計(8科目)	－	10	7	0	－			8	4	4	0	0	兼1
	自由科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前			2		○		2	2	2			兼1
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後			2		○		1	2	2	1	1	兼1
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前			1		○		1	2	2	1	1	兼1
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後			1		○		1	2	2	1	1	兼1
		ソーシャルワーク実習	3通			6			○	1	2	2	1	1	兼1
		精神医学Ⅱ	3後			2	○								兼1
		精神保健福祉論Ⅲ	3後			2	○			1					※演習
		精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ	3後			2		○		1	1				
		精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	4前			2		○		1	1				
		精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3後			1		○		1	1			1	
		精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4通			1		○		1	1			1	
		精神保健ソーシャルワーク実習	4通			5			○	1	1			1	
		小計(12科目)	－	0	0	27	－			3	3	2	1	1	兼2
合計（151科目）			－	70	171	31	－			9	4	6	1	1	兼65

学位又は称号	学士（社会福祉学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目70単位，基盤教育科目の選択科目から13単位以上，専門科目の基礎科目の選択科目から10単位以上，基幹科目の選択科目から20単位以上，発展科目の選択科目から16単位以上，展開科目の選択科目から2単位以上を修得し，131単位以上修得すること。なお，発展科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについては，主専攻の教育群から8単位，主専攻以外の教育群から各2単位，さらに全ての教育群から2単位以上を修得しなければならない。（履修科目の登録の上限：年間48単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	ひと・生命の広がり	人間関係と コミュニケーション	ケアを受ける人にとっては、ケアを提供する人に「安心・安全・信頼」などを求めることは当然のことで、だからこそ、ヒューマンケアを目指す人にはケアを受ける人との良好な人間関係の構築が必要となる。そのためには適確で穏やかなコミュニケーションの実践が重要なキーワードになるが、本講座では、ヒューマンケアを目指す人に必要なコミュニケーションの様々な形、ケアの対象に応じた多様なコミュニケーション（言語・非言語的）のあり方と活用方法について学ぶ。このような学習を通して、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （38　倉田郁也／7回） コミュニケーションの基本技法を学び、人との関りを持っていく中で心の訴えるコミュニケーションができることを目指す。 （40　宮内克代／8回） コミュニケーションの様々な形について理解し、自己と他者との関係、他社相互間の関係などについて理解を深める。また、対人コミュニケーションの基本的な理論や先人の知恵を学習し、学んだ理論を実感し体得すべく、演習を行う。	オムニバス方式 講義　24時間 演習　6時間
		信仰と文化	人間社会がつくり出した文化を、その価値を共有するためには、何よりも一人ひとりの精神的価値（宗教、理念など）を束ねることが重要な課題であった。この現象は、古代から現代まで、中東からアジアの国に至るまで時代と国境を越えた人間歴史が共通する痕跡で、人間社会の本質を知る上で必須不可欠な学びである。特に信仰には、文化圏で育まれた世界観や倫理感を反映した枠組みを必ず持つが、本講座では、信仰対象の多様性と文化の成り立ちから日本の伝統精神を理解し、日本人らしさとは何かを学ぶ。さらに、日本人の生活様式、価値観、倫理観、死生観等の形成に大きく影響してきた神道、仏教の考えについて理解する。「人の生命の現場」に向きあいながら、人生の中で「ケア」の道を目指す学生と「仏教の生命観・死生観」に視点を置きながら学びを深める。 （オムニバス方式：全15回） （47　風早康惠／8回） 日本固有の民族宗教である神道（狭義の「神社神道」の枠を超えた、古代より現在へと続く、風土に根差す信仰の形）に関して、その世界観・死生観を中心に具体的に解説してゆく。記紀、『万葉集』等の上代文献、祭祀および祭祀遺跡、民俗儀礼、民俗芸能等からテキストを選び、「生きゆく」実感に即して語る。神道と他宗教とのシンクレティズムにもふれる。 （42　宮入宗乗／7回） 日本社会の形成と日本人の個々の精神生活・精神文化に深く影響を与えてきた仏教についてあらためて参究し、その視座を通して「すべての生命の尊厳」「自己存在の意味」や他者とのより良き関係性のあり方を学ぶ。	オムニバス方式
		ケアと人権	ソーシャルケアの対象となる人々は、その生成過程での社会的孤立や排除、無権利や無救済などに加え、生活、社会的地位と権利などの面でいわゆる「弱者」の位置に置かれることが多い。従って、制度、サービスの運用面で最大の「配慮」を必要とするだけでなく、ケアの実践の場面においても人間の尊厳を踏まえた倫理的・道義的配慮と、人権の尊重が求められる。ハンセン病、被爆者、子どものいじめ・虐待、精神疾患者・認知症者等の身体拘束と隔離などの、歴史的、現代的課題を学ぶことで、ケアの基本目標のひとつである基本的人権の確保と尊重についての理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	ひと・生命の広がり	足と健康　基本	「歩く」という行為は人間の基本動作であり、足部のクッション機能とポンプ機能は心身の健康に大きく影響している。日本における足と靴の健康に関する取り組みの現状および本学での足育の取り組みを知り、足の健康の重要性を認識する。健康寿命を目指す佐久市に設置されている本学の役割の一つとして自身及び周囲の人々に必要とされる足の健康を守るための基本的な能力を身につける。「歩く」を支える「足」の機能、足のトラブルと「靴」との関係、姿勢や歩行分析の基礎知識と技術を活用して、あらゆる年代の人が健やかに歩くことを支えるためのケア習慣を目指す。 （オムニバス方式／全8回） （31　宮原　香里／1回） 足育の定義、足育の必要性 本学における足育の取り組み 足と靴の関係、靴の選び方と履き方、ナースシューズの選定方法 （21　坂江　千寿子／3回） 足趾と爪を守るためケア 基本的な爪の切り方 爪のトラブル予防と対策 ドイツと日本の足と靴事情 足と靴に関する基礎知識と足部観察スキルの習得 （31　宮原　香里・21　坂江　千寿子／4回）（共同） フットプリント採取の目的と活用方法 立位（歩容）の観察および足部のフィジィカルアセスメント 小児・高齢者・妊産婦の足部観察時の留意点 足部分析法	オムニバス方式・共同（一部）
		人間存在と世界観	人間は、長い進化の歴史の中で常に存在の意味や価値を問いかけ、その答えを宗教や理念、文化などのあらゆる面から見つけ出そうとしてきた。その中で個人と世界との関連性に意味を与え、客観的かつ社会的存在としての意識も高まっているが、本講座では、その社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考えることにより、社会的行為の意味を理解する。また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、個々を尊重し合う社会環境の創成と自らの関わり方について視野の拡大を考える。	
		宇宙と生命の起源	生命はどのように誕生し、地球環境にどのような形で応答しながら進化してきたのか？本講座では、地球46億年の歴史と生命の発生と進化の連続性について、分子生物学的な視点から生命現象を理解する。また、近年の天文観測では、生命の起源となる地球の生命の構成要素がすべて宇宙に存在することが確認されている。宇宙における生命の起源、進化、伝播、および未来を探求するアストロバイオロジー（宇宙生物学）という新たな知見からも学びを深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	ひとと文化の多様性	国際事情と社会貢献	二国間、あるいは多国間における分断・対立と協調の狭間で変動する国際社会の今日的課題を理解する。OECD・WHO・ILOなど様々な分野の活動組織について学び、同時に国際経済情勢などがどのように国際的な活動へ影響を与えるか、また、国際的な社会貢献のあり方について学ぶ。さらに個人、佐久大学・佐久市、JICA等が行っている国際的な社会貢献の実際について学び、国際交流に参加し、国際理解を図る。 （オムニバス方式／全8回） （46　駒村　哲／5回） 国際関係の歴史的形成と展開に関する基本的知識を得ると共に、現代国際社会が直面する諸問題を解決する手法を学ぶ。 （25　東田吉子／3回） 佐久地域は歴史的に農村医療から地域先進医療へと展開され、その経験と手法は国際協力プロジェクトに十分に活かされている。保健・介護の視点から国際協力について学ぶ。	オムニバス方式
		多文化理解	国家とは異なる文脈で世界の歴史を形づくってきた民族と文化の意味を学ぶ。また、国際的な異文化の理解にとどまらず、あらゆる文化背景を持った人を尊重し、共存していくためにどうしたらよいかを考える。本講義を通して、多文化共生社会の中で異なる文化背景を持った人との円滑なコミュニケーションの方法を実施し、互いを理解・尊重し、共存する体験の機会となることを期待する。	
		ジェンダー論	「ジェンダー」は、現在、社会学のみならず多くの学術分野で重要な概念として使用されている。また、「性／性別」に関わるさまざまな社会現象・社会問題について言及する際にも用いられ、マスメディアでも目にする機会が増えてきている。日本は公的・社会的な役割分業、家族などの私人間関係における性役割分業のジェンダー視点での見直し、再構築が、先進国の中で最も遅れている。本講義では日本の現実に触れながら、社会的・文化的・歴史的にみるジェンダーの構築と構造について、基本的概念を日常的な問いから理解する。また、社会および個人の多様な価値観・文化の違いを理解し、ジェンダーをめぐる諸課題を自分自身の生活と関連付けて考え、表現する力を養う。	
		文学	東洋と西洋の文学における世界観から、モノ・コトの見方を広げる。特に文学の原点である古典文学は、現代においても高い評価を受けるものである。具体的な作品の分析、また、つくられた時代や文化的背景を理解することで、作品の奥深さを考え知ることができる。なお、主題となる文学(作品)の種類は開講年次によって変わる。この科目を通じて、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解することが期待される。	
		芸術学	時代を表する芸術が示す多様な思想、価値観、表現力から豊かな感性を育む。絵画や彫刻といった視覚芸術から、音楽、演劇、映画、舞台芸術などの多様な表現法に触れることにより、多様な文化を深く理解する。なお、主題となる芸術の種類は開講年次によって変わる。本講義を通して、芸術に自らの心が動かされる機会、芸術を通して他者や文化を理解する機会となることが期待される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	ひとと文化の多様性	アジア事情	アジアにおいて経済発展を成し遂げている中国・台湾・韓国に着目し、それぞれの社会・文化・生活について基本的知識を学ぶ授業である。各国の成り立ちや、近代社会の発展過程、そして持続可能なアジア社会を維持するために各国の国民が目指す目標や考え方を学ぶ。異なる国の背景を理解することで、学生の自国との比較が期待され、国際的思考や視野を広げることを目的にする授業である。 （オムニバス方式／全8回） （36　廣橋雅子／5回） ・東アジア諸国の歴史や国の形成過程において培った各国文化を理解すると同時にそれぞれの社会構造、政治、教育などについて各種資料を参考に日本との違いを学習する。 ・国として認められない「台湾」がどのように100年の歴史を築き上げてきたのか。そしてオランダ・スペイン・日本に植民地化されたここの土地の人々が後世に受け継いだ文化が現代の生活にどのように生かされているのかを学ぶ。 （16　李　省翰／3回） 本講義は、グローバル視点からアジア共同体に対する理解を深めていくとともに、アジア諸国のなかで韓国の文化、経済、生活様式などを学修する。	オムニバス方式
	ひとと社会生活	信州・佐久学	佐久を中心とした信州の豊かな自然環境と風土、そして歴史や文化、産業、環境問題や社会問題、教育問題、地域の抱える課題など多角的な視点から地域特性を理解する。また、山村・農村地域の風習や特有の暮らし方について理解する。この科目を通じて、長野県、佐久地域を看護や福祉の対象としてとらえ、理解を深める体験をする。さらに、自らも地域 の一員であることを自覚し、これからの地域社会をより良くつくり上げていく気持ちを持つ。オムニバス形式で、歴史、文化等各専門家が講義を行う。 （オムニバス方式：全10回） （77　市川　正夫／7回） 長野県や東信地方、佐久地方を地理的・歴史的分析を通して地域を捉える能力を養う。自明とされる事柄に対し、問い直し新たな認識を構築で きる思考力の育成、過去のものを批判的立場に立って新しい創造性の醸成、異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる能力を育成する。 （81　桜井　達雄／3回） この授業では佐久地域の自然に注目して、フォッサマグナ・千曲川（信濃川）・天文台など五つの題材に地質・気候・防災・環境などの観点で探究する体験を通して地域の魅力として認識することを目指す。	オムニバス方式
		消費と経済活動	人のライフスタイルの変化やグローバル化など社会経済情勢の変化に伴い、経済社会における消費活動の在り方も変わってきている。特に、消費者問題が多様化・複雑化し、新たな形態の消費者問題が発生している中で、現代社会において自立した消費者として必要な基礎的知識や生活するための知識は重要な学習テーマである。本講義では、消費者問題や消費者教育、消費生活情報などを学習し、人間生活の基礎である生産と消費の現代的な仕組みと課題について学ぶ。	
		契約と社会のルール	現代社会における法とは何か、法が社会生活でどのような役割を果たしているのかを理解し、国民の基本的人権の保障や社会的弱者の人権保護について学ぶ。民法による家族、契約、物の交換や所有といった日常的な事柄に法が関与することを理解し、生活者に要求される法規範意識を身につける。身近な問題について法の視点からとらえることで、解決への道筋を自ら考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	ひとと社会生活	ボランティア・住民活動論	ボランティア活動や地域支援活動の原理・原則、社会的意義などの基本と実際を学ぶ。とくに社会福祉分野（障がい者・子ども・高齢者など）に限らず、教育・環境・文化・スポーツ・災害など、身近な地域でおこなわれている住民主体の活動に焦点をあてて学修する。 （オムニバス方式：全15回） （26　中嶋　智子／8回） ボランティア活動は、他者のために何かをしたいという「利他的動機づけ」または、社会的義務や知識の習得などの「実利的な動機づけ」など個人の動機づけによっておこなわれるものである。NPO/NGOなどの組織的なめ、ボランティア活動の原理・原則、社会的意義などの基本と実際を学ぶ。 （40　宮内　克代／7回） 住民が自らの地域を愛し、守ろうとする地域支援活動の意義、方法、内容についての概説を学び、行政との連携、学校教育との関係などを考察していく。それを踏まえ、自らの地域の中での住民活動をひとつ選び、活動のきっかけ、その後の発展、今後の課題などを学生自身が分析していく。	オムニバス方式 講義　12時間 演習　4時間
		個と集団	社会学の研究対象の範囲は非常に広く、日常生活のなかの人と人との出会いの分析から、世界規模の社会的プロセスの研究にまでおよぶ。本講義はその入門編として、あらゆる社会現象の背後への理解や社会の成り立ち、また、社会の安定性や変化、解体・崩壊などについて学習し、私たちの日常生活の土台となっている社会構造の理解と社会の成り立ちの基礎である個と集団の基本的な視点を学ぶ。	
	学びと自己変容	表現技法Ⅰ	大学で主体的に学ぶ方法の基礎として、聴く、話す、読む、書く、調べるという基本的な能力を身につける。入門演習では、主体的に学ぶ姿勢、情報の検索、情報の読解や要約、問題の明確化、明瞭かつ論理的に表現することについて学ぶ。この学びを通して、日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら考え、適切に自分の考えを表現することができること、また、日常生活や大学での他の授業、実習、ケアの場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようにすることが期待できる。	
		野外活動論	野外活動論では、自然環境と人との共生関係を知り、ヒューマンケアを学ぶ人材として環境共生社会構築に貢献できる意識を醸成する。そのために、野外活動（キャンプ、登山、スキー・スノーボード等）に必要な基本的知識（関連用語、社会的意義・必要性、用具の使用方法、効果的な指導方法等）や、活動に伴う危険及びそれに対する適切な対処方法について学習する。本講座により、野外活動に関わる基本的知識の習得や野外活動指導者に求められる資質や役割への理解、野外活動に伴うリスクマネジメントのスキルの習得が期待できる。	講義　10時間 演習　6時間
		災害ボランティア	国内外を問わず、災害が発生すると多くのボランティア(NPO・NGO含む)による様々な被災者・被災地を対象とした活動が行われている。そして、その活動は、災害の経験値を生かす形で、災害後だけではなく「災害サイクルモデル」に基づき事前予防としての防災・減災までその射程を拡げている。本講義では、災害ボランティアの概念、発展史、原理・原則、対象者などについて具体的な事例をもとに学ぶ。	講義　10時間 演習　6時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	学びと自己変容	入門演習	大学で主体的に学ぶ姿勢、および学修の基本技術(聴く、話す、読む、書く、調べる)を身につける。入門演習では、高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的に、小グループで保健・医療・福祉に関する疑問を立て、グループ内でのプレゼンテーションやディスカッションを通じて意見をまとめ、全体でプレゼンテーションを行う。このような学習を通して、学習活動に必要となる基本的な学習技術の習得や専門教育における学習目標を設定するための動機づけにつながることが期待できる。各グループに分かれて進める。	
		CBL実習Ⅰ	本実習の目的は、地域の生活文化に関心を寄せながら、地域のくらしに触れ、住民と継続的な交流をすることで多様な価値観を理解することである。また、学修者自らも、地域の生活者であることを自覚し、地域が抱える社会問題や個人の生活経験への関心や意識を高める。長野県にある公民館の数は、日本一多くその歴史も古い。地域に根付いたコミュニティ拠点からみえる「地域が抱える社会的課題」についてグループでまとめ、全体で発表することにより学びを共有する。 ＊CBL(Community-Based Learning)とは、学修者が地域の社会活動に入り込み、住民と相互的な関係性を構築しながら、自らの実体験を省察する学習活動のこと	演習　6時間 実習　54時間
		CBL実習Ⅱ	本実習の目的は、地域の生活文化に関心を寄せながら、地域のひとと触れあい、社会的土壌をつくる多様な価値観を理解することである。互酬性（互恵性）の規範、社会的なつながりは、地域固有なものといえる。フィールドワークや農村民泊等の体験を通じて、個人の生活体験や価値観を直接見聞きしながら、地域が抱える複雑な社会的課題を再発見する。さらには、実習経験をもとに、よりよい地域社会のありかたについて問い続ける姿勢と、実践力を養う実習である。 ＊CBL(Community-Based Learning)とは、学修者が地域の社会活動に入り込み、住民と相互的な関係性を構築しながら、自らの実体験を省察する学習活動のこと	
	ひとと情報	コンピュータの基礎演習	大学生活に必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。 また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。	
		情報管理法	情報の収集、加工、蓄積、利用、廃棄などの情報管理の手法について学修する。特に収集した情報を整理、加工する二次情報の作成とデータベース検索による情報検索の手法についての基礎的な知識を習得する。また、データソフトSPSSの使い方を習得する。	
	ひとと世界	英語Ⅰ	さまざまなケアの場面で使用される基本的な英語表現を学ぶ。また、関連する医学・看護・福祉でよく用いられる語彙を増やし、発音に焦点を当てて学修する。いくつかの健康問題や社会問題について、英語で話す、聞く、書く、読むことを実践する。これにより、英語を学びながら医療、福祉のボキャブラリーを増やし、ケアに関わる知識やコミュニケーションスキルを高める。	
		英語Ⅱ	英語Ⅰに続き、英語Ⅱでもいくつかの健康問題や社会問題について、英語で話す、聞く、書く、読むことを実践する。これにより、英語を学びながら医療、福祉のボキャブラリーを増やし、ケアに関わる知識やコミュニケーションスキルを高める。とりわけ、短い文章の英作文ができ、メール等による意思伝達できる力をつける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	ひとと世界	中国語Ⅰ	初心者のための中国語授業である。中国語には5つの音の変化があり、地域で使用されている方言もあることなど、言語的基礎知識も学べる。前半では中国語の発音で重要なローマ字表記によるピンインを習得したうえで、数字、時間表現や自己紹介などの表現方法を身に着ける。15回の授業のなかで簡単な挨拶会話ができることを目標とする。	
		中国語Ⅱ	中国・台湾からの留学生・研修生との交流で使用できる易しい会話を中心に授業を展開する。生活に密着した中国語会話や中国文化と日本文化の比較を取り入れることで学習意欲を持ち続けられる。実践的かつインタラクティブな会話能力や書く能力を更に身に着けることができる。	
		韓国語Ⅰ	初心者のための韓国語講義である。体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅰでは、基本的な韓国語の発音と語彙、類型を中心に学習する。15回の授業のなかで簡単な挨拶・会話ができることを目標に取り組む。	
		韓国語Ⅱ	韓国語講義では、体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰの学習内容よりからさらに多様な語彙、類型を中心に学習する。言葉と関連して、韓国の文化などについても紹介しながら授業を進めていく。	
		医療・ケア英会話	日常生活で頻繁に使われる基本的な会話が英語で話せることを目指す。家で、駅で、お店で、学校で、会社で、レストランで、観光で等、場面ごとによく使われる英単語、基本表現などを学ぶ。英語によるコミュニケーションへの抵抗感をなくすために、簡単な文章から会話演習を繰り返して学ぶ。又、病院や施設などでケアサービスを利用する場面を想定したクライアントとサービスプロバイダとの会話と、サービスの利用手続き等に関わる会話を進める。	
		医療・ケア中国語	高齢化社会における中国語圏国家では、使用言語の相違だけでなく、生活文化や福祉政策が異なるため、言語背景に存在する文化探求をする科目である。中国語Ⅰ、Ⅱを終えた学習者を対象に、通訳技法（スラッシュリーディング・シャドーイング）などを利用してケアや生活会話などを学ぶ。また中国・台湾の医療福祉関連資料を読む能力も習得する。	
専門科目	基礎科目Ⅰ	ヒューマンケア概論Ⅰ	ライフサイクルの「依存とケア」の視点から、動物社会との対比を踏まえつつ、人間社会のケアの特徴をまず理解する。ついでケア行為をめぐる受け手と与え手の関係性の構造を諸側面（二者関係、関係性の転換志向、専門職間関係など）から検討する。最後に関連する制度及び政策をケアレジーム論とともに概観する。ただし、この部分の詳細はヒューマンケア概論Ⅱで展開される。初年次学生が現代社会におけるケア関連専門職の位置づけと役割を考えていく契機となる講義である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目Ⅰ	生命倫理	本講座では、生命の尊厳と人間尊重の精神を理解するために、生命に関する倫理原則を多方面での角度から具体的な例を検討しながら学修を行う。その学びの中で、社会背景や歴史、または人間文化のみならず、社会環境によって多様な形で変化して行く価値観の違いや考え方の相違についても確認する。これらの教育は、生命の価値への理解を深め、医療に携わる専門職としての行動基盤を築く機会として意義がある。 （オムニバス方式：全15回） （33　盛岡正博／5回） 生命倫理の概念が形成された歴史とその背景を中心に提示する。現代社会に於ける生命の尊厳を理解することの大切さを学ぶ。 （51　村島隆太郎／5回） 医療現場で行われる治療行為の中で、医療者と患者の間で相互に理解して判断を求められる事柄について学ぶ機会とする。 （52　廣瀬　健／5回） 近年、生命誕生への医学的介入が多くみられている。産婦人科医としての具体的な事例を通して課題を共に学びたい。	オムニバス方式
		佐久の医療とケアの歴史	人々の行動や健康は、周囲の社会環境の影響を受けていることが研究で明らかにされている。佐久地域では、医療機関と住民が協働し、地域医療に取り組んできた。それは人々の健康を疾病や治療という視点を越えて、生活のレベルで捉え、健康増進・リハビリテーションなどを含むトータルな保健システムによる取り組みである。健康をめぐっての個人・社会・文化の関わりについて、わが国における事例から説明していく。テーマに沿ってゲストスピーカーを招聘し、講義を行う。	
		生活習慣と健康	人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮らしを取り巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ねは重要な影響因子となる。自己のふり返りを基に、健康の回復・維持・増進のための基礎的な知識を深め、心身の健康維持に必要とされる食事や運動、思考、生活習慣などについて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変容につながる介入のあり方を理解する。	
		食と健康	人間の生命維持に必要な栄養素とその代謝経路について理解し、疾病の予防、健康保持増進、疾病の治癒、回復に寄与する栄養の働きを学ぶ。特に、医療、福祉の現場で必要な食事療法とその原理を理解し、栄養素の給源である食べ物や食事としての実践方法を学ぶ。また、ライフステージごとの栄養的特徴や問題から、現代における、「人」「地域」「社会」の食生活の課題を明らかにし、その解決に向け連携できる職種や活用できる地域の資源を見つけられるよう、演習を取りいれた学びとする。「食と健康」を学ぶ中で、自分自身の食生活を振り返り、健康な食習慣に向け学んだ知識を実践することで心身の健康や自分らしく生きる力が身につき、命の大切さを深く理解し、擁護する能力の養成につなげていきたい。	
		運動と健康Ⅰ	ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。さらに、年代、体力、障がい等の条件に応じて人々が安全に楽しく運動を実践するために、アセスメント方法、環境づくり、安全管理の基礎的な知識を学ぶ。	講義　2時間 演習　28時間
		運動と健康Ⅱ	子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、心と身体の健康と運動の関係や運動の基本的な知識や理論を理解する。また、自らの健康づくり及び楽しく安全な運動習慣を身につけるために、メッツとエクササイズの概念を理解した上で、日常生活の中で楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。	講義　2時間 演習　28時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目Ⅱ	ヒューマンケア概論Ⅱ	人間のライフサイクルをつなぎ、現代社会の持続性に不可欠な役割を果たしているケアに関する制度・政策・思想など中心に学ぶ。ケアシステムにかかわる現実的な課題とともに、今後のありようについての考察を行う。具体的には、ケアの制度化・産業化の進展、市場化優先のケアの社会化と持続可能性、ケアシステムを支える思想の追求、という順序で展開される。ヒューマンケア概論Ⅰに続くものであり、年次進行に伴うヒューマンケア関連専門科目の基礎となる位置づけの講義である。	
		社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歩みを、社会や生活の変化と関連させて学び、慈善・救済から今日の社会福祉に至る歩みを通して社会福祉の本質を理解する。近現代日本の社会福祉の展開過程を、制度・政策、施設や地域での実践、社会福祉の実践に関わった人々の事例によって具体的に理解するとともに、人々のニーズとそれに対する援助の変化を捉え、政策・実践・技術・思想の総合的な理解を行なう。また、今日の社会福祉を巡る問題や課題を捉え、社会福祉を前進させる力と援助実践の歴史的な意味や価値を深め、今後の展望を考える。	
		社会保障論Ⅰ	イギリスでは資本主義が他国に先駆けて成立したために、社会保障制度も早期に成立し、長い時間をかけて順次発展してきた。その経緯を辿ると、なぜ貧困救済が必要になったのか、なぜ公的年金や失業保険が創設されたのか、その背景と理由が理解できる。イギリス社会保障の発展史を辿ることにより、社会保障の意義を明確にする。	
		社会福祉論	現代社会における多様な課題の中で、社会福祉は重要な責務を担っている。一方、社会福祉の現状は様々な分野に分かれており、複雑である。しかし、そもそも社会福祉とは何か、どのように捉えて行けば良いのかという根本的な問いに立ち返って、社会福祉のあり方を学ぶ。ここでは社会福祉の基底にある問題を生活問題として位置づけ、社会福祉が対象とする課題を明らかにし、社会福祉が果たす役割と意味について理解を深める。 （オムニバス方式：全15回） （1　佐藤　嘉夫／4回） 様々なエピソードやキーワードをもとに社会福祉の成立要因、具体的な形、社会的役割などについて学ぶ。 （7　下村　幸仁／8回） 社会福祉を学修する学生のための入門科目である。社会福祉の基礎的な理解を促進するために、近年の家族や地域社会で起きている様々な社会福祉の事例（主要な論点）を取り上げ、それらに対して、どのように対応しているのかを学ぶ。具体的には、社会福祉各法のなかにある権利としての社会福祉の視点から、社会福祉六法（生活保護、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、母子及び父子並びに寡婦福祉）と地域福祉の各分野の概要を学ぶこととする。そして、ソーシャルワークの展開過程の理解した上で、社会福祉の事例での福祉ニーズの背後に隠れている援助を必要とする多くの人々に思いに共感し、社会福祉援助者として関心と理解を深めていく。 （1　佐藤　嘉夫／3回） 社会福祉を支えている史的・哲学的な理念や思想を学び、それが、今日の社会にどのように受け継がれ、未来社会に拡がっていくのかを理解する。	オムニバス方式
		社会福祉法制論	社会福祉法制において、憲法では、その中核である「個人の尊重」を踏まえて基本的人権を、民法では、紛争解決のために必要となる法原理を基本的に学ぶ。そして、社会福祉法や社会福祉六法等をもとに各福祉制度の利用者の生活がどのように支援されているかについて概括する。また、成年後見制度では、判断能力が不十分な人々の生活全般の支援方法を理解する。社会福祉専門職として権利擁護活動を実践するために何が必要なのかについて学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目Ⅱ	ソーシャルワーク入門	ソーシャルワーク及びソーシャルワーカーについて、その理念と歴史、概要を入門的に学ぶ。日本におけるソーシャルワーカーの専門職として、社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について理解する。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を深く理解することを通し、学部の理念である「豊かな人間性」を修得することをねらいとする。	
		地域福祉論Ⅰ	本授業では、社会福祉士を含む社会福祉専門職がもつべき価値と倫理を基盤として、地域福祉に関する基本的な考え方・捉え方・実践で活用する知識や技法を体系的に学習する。具体的には、地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、地域福祉の推進方法等について学び、地域福祉への理解を深める。さらに、３つの論点（①人口減少時代の地域福祉の枠組み、②地域福祉の行財政、③地域福祉のベクトル）を中心に、多様な理論と実践事例を紹介しながら、図解を用いてわかりやすく解説する。	
		ケアワーク論	ケアという概念とその実践について、その歴史的背景を踏まえた意義や重要性を理解する。ケアとは、対象者の人生の一部に関わることである。対象者がどのように生きたいと思っているのかを理解し、実践(ケアワーク)を行うという捉え方が基本となる。そのためには、対象者とその周囲の環境、その人の過去・現在・未来、これらを関連付けた実践が必要となる。 ケアという概念が社会においてどのように捉えられてきたのか、また、今日の社会におけるケアを取り巻く諸問題を踏まえて、人間とは、生活とは、その中でのケアとは何かを問い、ヒューマンケアを探求していくための基礎的視点を獲得し、ケアについての理解を深めることを目指す。	
		ヒューマンケア基礎実習	本実習は、ソーシャルワーク実習の導入部にあたる実習である。内容は、福祉施設・機関等の「現場」の見学、体験実習である。10人から15人程度のグループに分かれて、2日間、午前と午後の4種・箇所を訪問して、施設・機関等の役割、処遇状況などの概要の講義をうけ、入所者、利用者との交流体験をする。	
		ケアワーク演習・実習	ソーシャルケア（福祉的ケア）とヘルスケア（看護的ケア）の共通の基礎となるケアワーク論とその技術にかかわる基礎である生活援助学の学修の上に、高齢者又は障害のある人を対象にしたケアの現場で基礎実習を行う。実習に先立ち、介護の基本技術演習と、実習現場での学びについての学習と実習において達成すべき課題について具体的な内容を想定した演習を行う。また、事後には小グループに分かれてまとめを行う。 介護の基本技術の演習については、担当教員全員がグループに入るが、短期大学部福祉学科教員と実習施設からのゲストスピーカーが中心になって行う。実習期間中は1日目と3日目に実習施設等を訪問し、実習生の指導を行うと同時に、実習指導者と打ち合わせを行う。	演習　12時間 実習　18時間
	基礎科目Ⅲ	法学（日本国憲法含む）	法のしくみと考え方について述べた後に、日本国憲法を柱とする現代日本の法の法体系について概説する。日本国憲法は、基本的人権の規定と統治組織の規定とで構成されている。本講義においては、人権の部分を中心として行うものである。よって、人権の享有主体、各種自由権、社会権、参政権、受益権等について解説していく。個別法の中では、民法を中心に契約の考え方と、親族法における扶養関係他相続について触れる。	
		経済学	戦後のケインズ主義的「大きな政府」理論は、財政問題とインフレによって頓挫し、1980年代以降、フリードマン流新自由主義的「小さな政府」理論にとって代わられた。新自由主義とグローバリゼーションの30年が経ったが、近年「小さな政府」を批判した上で、財政支出の拡大を求める経済理論が抬頭するようになった。イギリスのＥＵ離脱やトランプ現象（アメリカ・ファースト）もその流れの中にある。格差と貧困が広がるなかで、ミクロ経済学からマクロ経済学へのシフトが見られる。経済学の今を知ることにより、私たちの身の回りで起きている諸現象を理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目Ⅲ	心理学	心理学的理論と技法の基礎を学習し、人の成長と発達、人と社会のかかわり、日常のストレスと心の健康などを理解するひとつの視座を獲得することを目指す。人の心理と行動を機能という観点からいくつかに分類し、それぞれの領域から主要なトピックを選択して概説する。授業中にグループワークを行うことがある。	
		社会学	現代社会に生きる私たちの日々の生活は、複雑な構造をもっており、社会がどうなっているのか、そもそも社会というのは何なのか、全体像が見えにくくなっている。また実際それが見えないと思い込んでいる。しかし、人間と社会の関係は、様々な領域で複雑に絡み合っている。生活において見えなくなっている、あるいは見えないと思っている、社会との関係性を、社会学という視点を学ぶことによって可視化するのが、この講義の目的である。 （オムニバス方式／全15回） （①　関谷　龍子／12回） 現代社会において、一見無関係な現象でも様々な関連性を持っていること、それらを社会学的な視点から検討し、論理的に説明できることを理解する。現在の都市や地域社会、農村の特徴や置かれた状況について講義を行う。 （18　阿部　友香／3回） 農村社会学における基礎的な概念・理論について学び、現代の日本農村社会について理解を深めることを目的とする。	オムニバス方式
		家族社会学	家族社会学における基本的な概念やものの見方・考え方を習得するとともに、現代社会における家族の変化が、社会変動や制度とどう関わってきたかを知ることが本講義の第1の目的である。家族とは、受講生の皆さんにとって、身近な存在・対象であるかもしれない。だからこそ自分たちのもつ家族やそのイメージを自明なものとして考えてしまうことも多いのではないだろうか。こうした「家族の当たり前」を検討・分析する思考を養うことが本講義の第2の目的である。	
		生活学原論	人間存在の基礎である生命と日々の暮らしの再生産の仕組みについて学び、ソーシャルケアの前提としての生活理解を深める。具体的には、生活の循環・再生産の基本構造、時間・空間および資源的・地理的構成、主体的・客体的（外的・社会的）要素などについて理解を深め、生活の今日的諸相をとらえることでソーシャルケアの基礎となる生活理解の視点と生活把握の仕方について学ぶ。	
		医学概論	ヒトの医学生物学の基本概念を理解するために、生体組織、臓器の構造と機能、総合的調節機構、外界刺激への適応機序などについて学び、それらの正常の発現を異常のそれと対比するよう講義する。の各臓器 ヒトの生体の各臓器、脳神経、呼吸器、循環器、消化器、内分泌器、感覚器、泌尿器、生殖器、支持運動器など組織・臓器単位での基本を理解する。その中から特に脳神経や循環器を選びヒトの病態の発生、進展、予後との関連についての基本的概念を理解する。 （オムニバス方式：全15回） （33　盛岡正博／5回） 精神活動と身体の関係性を生理的活動を理解する中で学ぶ。感覚器や消化器及び循環器などの解剖生理を学び、心身の健康な状態について何かを考える。 （51　村島隆太郎／5回） 脳神経及び運動器などを中心に身体の働きを理解させるように提示したい。又、身体諸器官の成長過程や加齢による変化について学ぶ。 （52　廣瀬　健／5回） 生殖器、泌尿器などの臓器を中心に講義して、成長に伴う変化と老化による変化を理解させたい。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目Ⅲ	基礎統計法	この講義では、社会調査などで得られたデータを要約・記述したり統計的に分析したりする際に必要となる、基礎的な統計学的知識を教える。授業では、講義が中心であるが、Excel等を使って統計量を算出するなどの作業も行い、統計学的知識をより深く理解できるようにする。	
	基幹科目Ⅰ	高齢者福祉論Ⅰ	本講義のねらいは、学習のスタートとして高齢者福祉の基礎的理解の涵養を図るところにある。今後、長きに渡り、超高齢化社会としての課題へ向き合う我が国にとって高齢者福祉をめぐる議論は、より複雑化の様相を示し、先行きの見通しも定まらぬ状況にある。しかし、そんな今だからこそ、足元を見直すこと、つまり、積年の成果を確認することから、新たな展望を目指すことが求められる。まずは、高齢者福祉の発展過程を巡り、また要となる制度の基本的な理解を養い、更には、現代的課題となるテーマを概観することによって、本講義の目的を達成したい。	
		高齢者福祉論Ⅱ	本講義では、制度的理解を基盤として、現在の高齢者福祉の状況を巡る施策、サービス事業者、利用者それぞれの現状と課題を理解することをねらいとする。そのために、介護保険法に基づく諸制度・機関（介護保険サービス、地域支援事業、地域包括支援センター等）や関連制度（日常生活自立支援事業、高齢者虐待防止法等）に関する知識の講義を中心に、事例や報道記事等も用いながら理解を深めていく。支援する/されるという関係性の理解を通じ、制度の活用に基づく福祉職としての援助のあり方を考える機会を提供する。事例を提示し、支援者と被支援者という一対一の関係性をとりまく多層的システムの認識を高める演習も含めて行う。 （オムニバス方式／全15回） （10　島田千穂／8回） 高齢者の身体機能、認知機能の変化のプロセスを理解した上で、支援者としての持つべき態度を学ぶ。それまでの人生を経て今があるという視点に立ち、現在そして将来に向けた支援に必要な高齢者に対する見方を学ぶ。 （14　林　宏二／7回） 高齢者の生活を支える介護保険制度や高齢者福祉制度の仕組みを理解する。高齢者施設・在宅サービスを理解する。高齢者福祉に関する専門職や関係機関の理解と相互の関連性や連携、その中で展開されるケアマネジメントや介護の展開過程などを総合的、体系的に理解する。	オムニバス方式
		障害の福祉学Ⅰ	障害者福祉の総論として位置づけ「障害」および「障害者」の本質とその福祉に関する基本的な知識を学ぶとともに、現在や将来の障害者福祉について科学的に考え、積極的に取り組む姿勢を培うことを通して、学部の理念である「豊かな人間性」と「問題解決能力」を修得することをねらいとする。 障害と障害者に対する理解、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）、障害者の法的定義、障害者福祉制度の発展過程、障害者施策の体系及び相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度等、基本的な事項の理解と修得を目指す。 障害概念と定義、障害者の実態、障害者施策の概念等を通じて、社会の中での障害者の生活の支援の枠組み、支援における地域での連携、協働について理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅰ	障害の福祉学Ⅱ	近年、障害者福祉は国際的にも国内的にも大きな変化が生じてきている。本講義では、国際的な障害者の自立生活運動の歴史や障害者福祉の基本的な理念を学び、障害者権利条約や国際生活機能分類（ICF)に照らし合わせて障害の概念の定義が変化してきていることを理解することを目的とする。その上で、日本国内における障害者福祉の法制度・施策（障害者総合支援法）、サービス体系、障害者施設・障害者福祉サービスの種類、就労支援サービス等を取り扱う。また、精神障害者は疾患と障害を併せ持つという特徴がある。精神障害者の「リカバリー（回復）」の概念を学ぶことで、精神障害についての理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （14　林　宏二　12回） ノーマライゼーション、自立生活、エンパワメント、合理的配慮について学ぶ。障害をICFモデルによって理解し、支援と共生社会を考える （11　佐藤　園美／3回） 精神障害者にとっての「リカバリー」とは何か、「エンパワメント」「ストレングス」「リカバリー」について、精神障害者の地域生活支援について学ぶ。	オムニバス方式 講義　22時間 演習　8時間
		児童福祉論Ⅰ	社会福祉の基礎分野としての位置づけから児童・家庭福祉とは何かを考えさせ、児童・家庭福祉への視点を学習させることをねらいとする。現代社会における児童・家庭福祉の社会的背景、児童・家庭福祉ニーズの把握方法、児童の権利、子どもの貧困、子ども虐待、一人親家庭、家庭内暴力（DV）、子育て支援、児童・家庭福祉の法律とサービス体系、児童・家庭福祉に対する相談支援活動等について学ぶ。	
		児童福祉論Ⅱ	①児童福祉の領域で福祉サービスの対象とされた児童やその家族の問題、社会との関係等について学ぶ。児童に関する様々な課題、例えば要保護児童問題、非行、不登校、情緒障害など具体的な臨床課題を取り上げ、事例を通してそれらの課題解決のための援助技術を学ぶ。児童相談所や各種の児童福祉施設で取り組まれている様々な事例、また地域における様々な組織やNPOの取り組み等をもとにして、臨床現場における一般的な援助の形態、実際の援助手法、児童福祉に関する問題理解の仕方、必要とされる社会資源の活用等についても言及する。 ②子どもの貧困の現状を理解し、貧困が子どもに与える影響や貧困と他の要因との関連について学ぶ。子どもの貧困を解決するための対策について、児童福祉、学校福祉の視点から考える。また、イギリスにおける施設養育の理論と実践をもとに、新たな施設養護について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (12　髙松　誠／7回) 各種児童福祉施設の理解、児童福祉施設への臨床的視点、NPOによる子ども支援サービス、地域の児童福祉サービスへの理解、臨床課題と向き合うための視点 (49　尾島　万里／8回) 子どもの貧困の現状を理解し、貧困が子どもに与える影響や貧困と他の要因との関連について学ぶ。子どもの貧困を解決するための対策について、児童福祉、学校福祉の視点から考える。また、イギリスにおける施設養育の理論と実践をもとに、新たな施設養護について学ぶ。	オムニバス方式
		女性福祉論	はじめに社会福祉において女性がどのような役割を担ってきたのか、歴史的変遷について学ぶ。次に社会福祉が女性の仕事として、主として女性によって担われていること、また担うだけではなく対象者も女性が多くを占めていることに気付き、今日的な社会福祉の課題はジェンダーと密接に関わっていることを理解する。報道記事や配付資料などから、社会福祉をジェンダーの視点で再検討し、社会福祉への理解を深めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅰ	貧困の福祉学Ⅰ	貧困は社会福祉のもっとも古い、根源的なテーマである。今日の先進諸国においても、貧困はその姿を変えて拡大・再生産されている。現代の貧困は、経済的な貧しさを意味するだけでなく、機会の不平等、標準的な生活スタイルからの逸脱、人間関係の希薄・粗雑化、精神の荒廃や社会的排除など、広く人間生活の「自立」を脅かす現象である。その貧困の防止と貧困者の救済の仕組みは、現代社会の最後のセーフティネットである。社会福祉全体における公的扶助制度の位置と機能について理解する。特に、わが国の生活保護制度に関する目的、基本原理、原則、保護基準の理解を深める。	
	基幹科目Ⅱ	ヒューマンケア調査論	住民や福祉のニーズを捉え、社会福祉などの政策・計画の立案を目指すには、一定の技法で生活や暮らしの実態を正確に調査し、的確に把握することが不可欠である。そのための方法が社会調査であり、住民の生活実態や価値が多様化、個別化する中で、その重要性は一層増している。この講義では、社会調査の基本的な知識を学び、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを理解する。また、社会調査の倫理や課題等についても触れてゆく。 （オムニバス方式／全15回） （①　関谷龍子／11回） 社会調査の基本的な知識を学び、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを理解する。また、社会調査の倫理や課題について理解する。 （17　渡邊　圭／2回） 質的調査の方法について（参与観察調査、ヒアリング調査） （18　阿部友香／2回） 質的調査の方法について（非参与観察調査、質的調査の種類と特徴）	オムニバス方式
		ヒューマンケア調査実習	社会調査は、暮らしや福祉ニーズの把握、住民の意識など福祉政策の論拠を、実証的に裏付けるための重要な方法である。本実習では、ヒューマンケアにかかわる調査法などの講義で学んだ理論的知識や考え方を、実際に地域の場において受講生が体験しながら、プロセスを実地修得し、その結果を地域政策や計画の立案などにどう活かしていくべきかを考える。調査の一連のプロセスを経験することで、専門職の資質形成に関わるもう一つの福祉実習である事を体験的に確認してもらう。	
		ヒューマンケア情報論	ヒューマンケアの基本となるコミュニケーションを、ヒトと機械の情報の観点から理解する科目である。 近年、個人や組織が最適な健康管理・診療・介護・福祉を受けられるように、“ヘルスケア情報ネットワークの社会基盤づくり“が急速にすすめられている。ヒューマンケアに携わる専門職が、生活情報や健康情報をICTシステムでどのように扱い多職種連携しているかについての現状を理解する。また、深刻な社会問題となっている情報格差（デジタル・デバイド）や、情報バリアフリーの考え方などを踏まえて、ヒトと機械との関係の今後のあり方について問いつづけられる情報スキルや倫理観を学修する。	講義　10時間 演習　6時間
		データ解析法	我々の身近にある問題や医療・ケア現場における問題の中には、それを科学的に解決するためにデータを集め、そのデータを人間の直感ではなく、数学的手法を用いて判断しなくてはならないことが多い。本科目ではこの手法である統計分析を学ぶにあたり、パソコンを適宜活用しながら、社会福祉におけるデータの解析法について学ぶ。統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、統計パッケージ（SPSS）を活用することで身に付けていく。また各自でアンケート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。	講義　14時間 演習　16時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅱ	質的研究法	人を対象にしたケアの研究法のうち、面接や観察によって得られたデータを意味論的に解析する質的研究の理論と方法について学ぶ。将来、社会福祉領域で働く専門職にとって有用な方法を選択し、研究のためだけでなく、実践においても援助技術を振り返る目的での活用、新たな援助技術の開発、根拠のある援助技術構築に生かせる手法として、質的研究法を学ぶ。具体的な演習を交えて、データ収集から分析の過程を体験する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） （10　島田千穂／5回） 質的研究法の特徴について、量的研究法と比較して長所と短所を理解する。インタビュー、及び参与観察によるデータ収集と、分析の実習を通じて、質的研究の進め方について理解する。 （18　阿部友香／4回） フィールドワーク・参与観察、データ分析方法の紹介 （10　島田千穂・18　阿部友香／６回）（共同） グループワーク（インタビュアーとインタビュイーの体験。その逐語録を作成し協働でテーマやストーリーをみつけ発表を行う）	オムニバス方式・共同（一部） 講義　18時間 演習　12時間
		ソーシャルワーク論Ⅰ	ソーシャルワークが必要とされる社会状況とソーシャルワーカーに求められる役割を入門的に学ぶ。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」への理解を深め、社会福祉士や精神保健福祉士によって行われる相談援助の理念や、相談援助における権利擁護の意義と範囲、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解する。これらの理解をもとに、人々の多様性を尊重し人権擁護と社会正義を進めるための、総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容について理解する。社会の課題に関心を持ち積極的に向き合う姿勢を養うことを通して、学部の理念である「豊かな人間性」と「問題解決能力」を修得することをねらいとする。	
		ソーシャルワーク論Ⅱ	ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。この科目では、人と環境の交互作用、相談援助の対象、相談援助における援助関係、相談援助のための面接技術について学び、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。またその中で、人間関係とコミュニケーションへの理解を深め、対話を重視し、自律的に考える力を培うことをねらいとする。	
		ソーシャルワーク論Ⅲ	ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。この科目では、ソーシャルワークを進めるにあたり、どのように相手と向き合い支援を進めていけばよいかを考え、理解する。そのために、相談援助の過程とそれに係る知識・技術（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。）、アウトリーチについて学ぶ。相談援助の過程を学び、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解することを通して、「問題解決能力」を高めることをねらいとする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅱ	ソーシャルワーク演習Ⅰ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得を目指す。	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、具体的な相談援助事例等を題材とし、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア、など）を想定した実技指導を行い、ソーシャルワークの過程についての知識と技術を実践的に習得することをねらいとする。	
	基幹科目Ⅲ	看護ケア論	看護は、個人・家族・地域を対象とした健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を目指して支援することを主な目的としている。実践の科学といわれる「看護学」の基本的な定義、理論を学び、専門職として看護師の行うケアの意義や援助について理解する。 （オムニバス方式／全15回） （22　八尋　道子／7回） 人間は生まれながら、自立した存在ではなく脆弱であり、ケアを必要としている。このケアの前提を視座として、看護師の果たすべき4つの基本的責任と、看護ケアを科学的に支える理論的基盤としての、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の捉え方・考え方、またケア提供者に求められる倫理的態度を学ぶ。 ICN看護の定義、WHO健康の定義、ナイチンゲール及びヘンダーソンの看護理論、メイヤロフのケアの本質、ケアの倫理 （27　武田　貴美子／8回） “看護師は何をしているのか”を視点に、対象と関係を築くこと、対象のニーズをとらえること、看護ケアを展開することについて学ぶとともに、看護におけるケアリングについて理解する。	オムニバス方式
		福祉臨床論	ソーシャルワークの援助技術の理解を深めるため、コミュニケーション、アセスメントとプランニング、効果測定と評価について、それぞれの技術や技法を具体的に学び、実践する力を身につけていく。また、さまざまあるソーシャルワークのモデルについても、それぞれの特質を学び、利用者の多様な生活課題について多面的にアプローチできるよう、理解を深めていくこととする。ソーシャルワークにおける終末期に関する支援、すなわち意思表明支援（アドバンスケアプランニング）から、臨死期におけるソーシャルワークの役割を、事例を通じて理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅲ	発達心理学	発達心理学とは、生命の誕生から死までの人間の心理的・行動的変化のプロセスを明らかにしようとする心理学の領域である。この授業では、まず乳幼児期・児童期の身体的発達や社会的発達を取り上げ、次に青年期を子どもから大人になるプロセスとして位置づけながら授業を行っていく。人はどのように様々な能力を獲得していくのか、その発達の様相とメカニズムを学ぶことで、子どもや人間に対する心理学的知識と理解を深めることを目的とする。	
		社会保障論Ⅱ	日本の社会保障制度は年金保険、健康保険、労働保険、介護保険という4つの社会保険制度と、生活保護、児童手当等の公的扶助・社会手当制度から成り立っている。現在、OECD加盟諸国では住宅保障や雇用創出策も含めて、その全体を「社会支出」と呼んでいる。本講では、日本におけるそれぞれの制度の作られ方や特徴を学び、他国の制度と比較対照することを通じて、日本の現行制度の問題点や改革の方向性を明らかにする。	
		保健医療制福祉度論	保健医療制度は、法律体系でもあり、すぐれて実践的な活動体系でもある。例えば、医療法等をはじめとする医療施設法体系によって、医療機関が規定され、病院や診療所などの医療実践が行われている。医療を実践する医療従事者については、医師法、歯科医師法、薬剤師法、保健師・助産師・看護師法等の国家資格が規定されている。保健活動については、保健所や市町村保健センターなどの場があり、社会福祉施設についても、社会福祉各法がある。さらに、介護保険法によって介護保険施設や事業所が規定され、社会福祉士や介護福祉士については、個別の制度があり、その人々の活動がある。これらの制度の現状と活動実践に焦点をあて、全体の仕組みについて理解する。	
		福祉サービス論	社会福祉は、①その外形的枠組みとしての法制度・政策と、②無形の労働実践としての「処遇」から成り立っている。それら2つを媒介する福祉の構成要素、具体的には政策・制度として形成された福祉が『人々に届くまで』の形・仕組みについて学ぶ。より具体的には、③施策・制度（規範として表明された＝条文、規則、要綱などの形で）を、福祉実践に変換するシステムと機能として狭義の福祉サービスを位置づけ、その原理、あり方と枠組みについて学ぶ。とりわけ、ここでは、福祉ニーズの特性とその時代的な変化によってもたらされた福祉のプロバイダー（提供体・者）の多様化が生み出した福祉の原理や原則の妥当性について検証するとともに、分野別、領域別に学んだ社会福祉を「サービス論」の視点から、包括的に捉えなおすことによって、その普遍的な性格と特徴について学ぶ。	
		国際福祉論	本講義では、地球規模の視野で社会保障をめぐる制度・政策の現状と課題、その対応策を学び、理解を深めることを目的とする。「福祉」が社会･国家にとって不可欠な社会政策として成立するプロセスとなっていく社会的背景をデンマークの社会学者エスピン・アンデルセンの『福祉レジーム論』を基礎としながら概説していく。とくに、21世紀後半の「福祉」の方向性について、北欧型福祉国家の分析ならびにイギリス型福祉国家をベースとし、東アジアの福祉社会の展開について考究する。地球規模あるいは超国家的な視野で社会保障を考える視座を提供したうえで、グローバル化時代の社会保障をめぐる課題に対して、いかなる制度設計や政策の策定が行われているのかを学修する。 （オムニバス方式／全15回） （50　野口　典子／12回） 「福祉」が成立していく社会的背景、イギリス型福祉国家の成立とその変遷、イギリスのコミュニティケア政策とその実践、イギリスのアウトリーチ型ソーシャルワークの実践、イギリスの福祉の行方、北欧型福祉国家デンマークの政策理念と社会モラル、デンマークにおけるケア実践・認知症ケア・ケア人材養成について、デンマークの福祉の今後 （16　李　省翰／3回） 本講義は、韓国の社会福祉に関する制度、法律、サービスを総合的に理解することを目的としている。授業の内容は、韓国の社会福祉政策と実践、社会福祉サービスの体系とソーシャルワーカーの実践、社会保障制度とサービスなどについて学習し、国内外の社会福祉に対する知識や国際的マインドを習得する。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅲ	地域保健学	長野県は日本でも最も平均寿命が高い地域の一つである。それと同時に、車社会がもたらす働き盛り世代の健康課題などが指摘されている。長野県の地域保健関係者が住民と共に取り組んできた健康づくりを例に、①集団の健康状態を把握する方法を知り、集団・社会の特性と健康の関係を考える、②ライフステージ別の健康課題とポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチの実際を学ぶ、③社会的環境への働きかけについて考える。	
		精神医学Ⅰ	本講義では、ソーシャルワーカーとして精神的な困難にある人の支援をする上で必要とされる、精神疾患に関する大切な基礎知識を学ぶ。具体的には精神医学の歴史と現状、生物学的基礎（脳の構造）、成因と分類（三大分類、国際分類法）、主な症状（精神病状と状態像）、各種検査（身体的検査と心理的検査）、そして主な精神障害（不安障害、統合失調症、気分障害、パーソナリティ障害、知的障害、発達障害等）について学びを深める。さらには、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として担うべき役割について理解する。	
		リハビリテーション論	1982年に国連が採択した「障害者に関する世界行動計画」において、「リハビリテーションとは、身体的、精神的、社会的に最も適した機能水準の達成を可能にすることによって、各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことをめざし、かつ時間を限定したプロセスである」と定義されている。このように、リハビリテーションは、人間としての尊厳を考える意味としての全人間的復権を目指すものである。 本講義では、この定義が意味するように、リハビリテーションの対象となる障害者をサービスを選ぶ主体ととらえたうえで、障害の概念、障害者福祉の基本理念、障害者の生活を障害別に理解したうえで、障害者がどのような介護を必要としているかを学習し、さらにチームアプローチをはじめとした地域でのサポート体制や家族支援についても学ぶ。	
		ヘルス・プロモーション論	人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスであるヘルスプロモーション(WHO：オタワ憲章，1986年)について学ぶ。まず、概念や基盤となる理論について理解し、そして個人や集団の健康と生活の質(Quality of Life)を高めるための理論や健康教育の技法、環境づくりの方法などを学ぶ。佐久大学の学生や近隣の人々など、特定のコミュニティへのヘルスプロモーションの計画・実施・評価を試みる。	
		貧困の福祉学Ⅱ	わが国では、貧困は姿を変えて再生産され、新たな広がりを見せている。今日の貧困は、経済的な貧しさを意味するだけでなく、機会の不平等、標準的な生活スタイルからの逸脱、人間関係の希薄・粗雑化、精神の荒廃、世代間連鎖など、広く人間生活の「自立」や「尊厳」を脅かす現象である。わが国の貧困者の救済の仕組みである公的扶助の中核をなす生活保護制度は、最後のセーフティネットである。本講義では、生活保護制度の社会保障制度や社会福祉行政における役割と機能、「自立支援」の在り方や福祉事務所における運用の実際を学び、さらには、低所得者に対する支援の内容や法制度化された「生活困窮者自立支援事業」の理解を深め、諸外国の公的扶助制度との比較を通して貧困者・生活困窮者の支援の在り方を考えていく。 （オムニバス方式：全15回） （7　下村　幸仁／10回） 生活保護制度の社会保障制度や社会福祉行政における役割と機能、「自立支援」の在り方や福祉事務所における運用の実際を学ぶ。 （15　脇山　園恵／5回） 低所得者に対する支援の内容や法制度化された「生活困窮者自立支援」の実際について理解を深め、貧困者・生活困窮者への就労・生活支援について考えていく。	オムニバス方式 講義　22時間 演習　8時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅲ	多職種連携	現在、医療や福祉の現場あるいは、地域では、さまざまな専門職者がチームを組んで、患者や、その家族の支援をすることの重要性が高まっている。多職種が協働するためには、支援する人々について到達すべき目標を共通理解し、お互いの専門性を活かす役割分担が必要である。その過程を実現するために、まずヒューマンケアに関わる様々な職種の定義、役割と、隣り合う又は重なり合うそれらの職種の区分の原理について学び、さらに、他職種の専門性の理解を通して、自分の専門性、役割を自覚することにつなげる。 （共同／全8回） （24　安川揚子・③　永野淳子／8回）（共同） 医療や福祉の現場で連携が求められる多職種／多職種の専門性と役割／多職種とのチームのあり方	共同
		司法福祉論	非行や罪を犯した人が、地域社会で再犯することなく自立と更生を図るための支援制度が更生保護制度です。本講義では、日本の非行・犯罪の実態を知り、少年司法制度及び更生保護制度を中心に、司法における福祉的支援の概要について学びます。さらに医療観察制度、犯罪被害者支援について知り、その対象者についての理解を深め、司法分野における福祉専門職（ソーシャルワーカー）の役割について考えます。	講義　24時間 演習　6時間
		ケア福祉行財政論	本講義では、行政組織の仕組みや官僚制の構造について体系的に学修したうえで、わたしたちの生活を取り巻く公的な制度や政策が誰の手によってどのような手続きでつくられているのかを、理論と具体例から考える。又、福祉の制度や具体的サービスが、どのような財政資源とその組み立てによって担保されているのかをわかりやすく学ぶ。実社会において行政が果たす役割や意義について考えるとともに、組織の病理や財源・財政の課題についても光をあてることでその課題や限界についても学び、市民社会と行財政とのかかわりについても理解を、深めるとで複眼的な視座で行政のあり方を考える力を養う。 講義を通して得た知識やアカデミックな視座を、現実をとらえる際の手段としていかして欲しい。	
		生活援助学	人の生活を支えるうえでは、その人の生活はどのように成り立っているのか、なぜ生活に問題を抱えることになったのかを理解することが必要である。そのため、障害や加齢に伴いケアが必要となることが、人の日常生活に与える影響について、人の生活構造、生活様式、生活環境など多様な視点から捉え理解する。そして、障害や加齢に伴いケアを必要とする人たちの生活支援の内容と方法について、ソーシャルワーク、ケアワーク、看護といった支援の専門性の違いと生活支援のニードとの関係性から把握する。 （オムニバス方式／全15回） （30　内山明子／6回） 障害や加齢による心身の変化／看護における生活支援とは／生活支援の方法（食事・排泄） （32　二神真理子／5回） 人の生活様式／障害や加齢による生活の変化と支援／生活支援の方法（移動・移乗） （③　永野淳子／4回） 生活構造と生活課題／生活環境と支援の必要性／福祉の専門職による生活支援とは	オムニバス方式 講義　18時間 演習　12時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目Ⅲ	ソーシャルワーク論Ⅴ	ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。この科目では、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）と、相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。相談援助における社会資源の活用・調整・開発、ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。）、集団を活用した相談援助、記録、事例分析について学ぶ。個別に見える課題を社会の出来事としてとらえ、ソーシャルワークとして進めていく際の倫理、知識、技術を総合的に学び、さらに学び続けていくための「豊かな人間性」と「問題解決能力」を修得することをねらいとする。	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、様々な実践モデルを用い、社会的排除や虐待（児童・高齢者）、家庭内暴力（DV）、低所得者、ホームレス、その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）などの、具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。授業では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を進める。習得した相談援助に係る知識と技術を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う。	
	発展科目Ⅰ（福祉臨床教育群）	児童養護論	今日、子どもと家庭を取り巻く生活環境の変化により、育児に対する不安や悩みを抱える養育者が増加し、子どもを家庭で養育することが困難なケースが問題となっている。このような社会的養護の現状を理解し、近年の家庭機能の脆弱化と、それに関連する社会的養護の取組について事例等を通じ学んでいく。その上で、子どもの発達の保障、子どもの権利を守る視点を意識しながら、社会的養護に関する知見を深めていく。	
		臨床心理学	臨床心理学は「人間行動の適応調整や人格成長を促し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、問題を軽減、解消することを目指す学問」である。心理学の中では、応用心理学の一分野であり、この講義は、臨床心理学の入門コースである。臨床心理学の対象（誰のどんな問題が対象になるのか）、アセスメント（どのように問題を捉えるのか）、そして介入（どう援助するのか）を学んでゆく。対象と介入に関しては、グループワークを行い、発表してもらうことで様々な対象と方法を効率的に学ぶ。また、臨床心理学の研究や実践の現状についても適宜紹介する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅰ（福祉臨床教育群）	老年心理学	認知機能の変化や感情、人格の変化、対人関係や心の健康などの心理学的問題を幅広く理解します。特に認知症の問題に重点を置き、ケアのあり方を具体的に理解します。高齢期と死の問題に関しては、心理とケアのあり方について具体的に考えていきます。授業ではアクティブラーニングのTBL を取り入れて理解を深めていきます。理論そのものの理解にとどまらず、事例と重ねて理解できるよう理論を説明することによって、実践で活用できる形で理論を理解できることをめざす。	講義　22時間 演習　8時間
		家族臨床学	当事者の世界を理解することの意味、支援における当事者の位置づけ、当事者主体の支援とはどういった支援かについて考察する。障がい当事者による運動の歴史や意義を学ぶ中で、当事者が主体となり、力を発揮できる支援、社会のあり方について理解を深めていく。加えて、当事者としての家族や、家族をどう支援するのかについても学び、支援における当事者支援と家族支援のあり方について理解を深めていくこととする。	
		老年学	人が老いるということはどういうことか、又、老化はどのように定義し測るのか。又、老化は食生活や運動だけでなく、人と人との関係やその中で生じるストレスが大きな要因と指摘されているが、そうしたストレスを生みだす社会のあり方や、老化への対応策まで含めて、人間の老化とそのプロセスを、生理的、心理的、社会的側面からとらえ、加齢現象の特徴と課題について理解を深め、高齢者支援の方法についての基本的な考え方を学ぶ。	
		障害学	障害者権利条約の締約国はこの条約に基づく義務の進歩に関する包括的な報告を国連に提出することとなっている。この科目では、障害者権利条約、障害者権利条約に基づく各国の「締約国報告(政府報告)」とNGOなどから提出されるパラレルレポート、骨格提言を学ぶ。世界の障害者にかかわる政策、実態、運動、最新のデータなどを学ぶことを通し、障害者権利条約が目指す社会はどのようなものか、各国はどのようにしてその社会に近づこうとしているのか、日本あるいは地域社会はどのようにしてそこに近づきうるのかを考える。	
		認知症ケア論Ⅰ	認知症介護におけるパーソンセンタードケアは、イギリスの心理学者トム・キットウッドが提唱した認知症ケアの基本的な考え方である。日本でもこの考え方は広く理解されるようになってきた。講義では、パーソンセンタードケア（その人を中心としたケア）を基本に、認知症を抱えた人のケアと生活支援について学ぶ。認知症の病気の面ではなく、本人の生活の面から認知症ケアを考え、その人らしい生活を継続していく支援を考える。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) （10　島田千穂／6回） 認知症の基礎知識、認知症の人へのサポート体制、認知症の人の生活場所毎の特徴と家族支援、家族における介護負担の実際と、家族への支援のあり方、認知症ケアの今後の課題 （35　唐澤千登勢／1回） 認知症の人とのコミュニケーションの取り方 （34　菊池小百合・10　島田千穂・35　唐澤千登勢／６回）（共同） 認知症の人への生活支援、認知症の人へのアセスメントの方法と対応、認知症におけるケア倫理 （10　島田千穂・34　菊池小百合／２回）（共同） 認知症の人のエンドオブライフケアの考え方と実際	オムニバス方式・共同（一部） 講義　22時間 演習　8時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅰ（福祉臨床教育群）	リスクマネジメント論	災害の発生はそれに伴い、当該地域の住民の日常生活に大きな影響を与える。このように災害因は1つのリスクとして捉えることができる。災害のような人々の日常生活に影響を与える「リスク」に対して備えるための危機管理手法として、リスクマネジメントという考え方がある。本講義では、災害に加え、保健・医療・福祉の様々な領域においても生じうるリスクに対する危機管理手法としてのリスクマネジメントについて基本的事項、実際の保健・医療・福祉・災害の現場におけるリスクマネジメントの手法について学ぶ。また、本講義では、保健医療福祉の現場におけるヒューマンエラーの定義についても学び、対象者の「安全」とサービスを提供者、施設を利用する人すべての「安全」を理解する。そのうえで、リスク回避方法の原則等について理解し、保健医療福祉の現場での具体的な事例をもとにリスクマネジメントについて理解する。 （オムニバス方式／全8回） （17　渡邊　圭／6回） 危機管理の枠組と近接諸概念、リスクマネジメントのプロセス、災害時におけるリスクマネジメント、復興災害とリスクマネジメント　及び事例検討を行う。 （30　内山　明子／2回） 保健医療福祉におけるリスクマネジメント ヒューマンエラーとマネジメント	オムニバス方式
		ソーシャルワーク論Ⅳ	ソーシャルワーカーに求められる専門力の向上を中心に取り組み、ソーシャルワークにおいて求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。この科目では、相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。ソーシャルワークの対象をどのような視点からとらえ、課題とされる状況にどのように取り組むのかには多様な考え方がある。そこで、様々な実践モデルとアプローチ、ケースマネジメントとケアマネジメント、スーパービジョン、相談援助と個人情報の保護の意義と留意点、相談援助における情報通信技術（IT）の活用について学ぶ。実践に対する理論的な思考を養うことを通して、「問題解決能力」を高めることをねらいとする。	
		精神保健 ソーシャルワーク論	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての専門的援助技術およびリハビリテーション技法の基本的な知識・理論を把握し、事例を基に総合的かつ包括的な相談援助、医療と福祉の協働と連携について考え理解を深める。特に精神障害者を支援する上で重要な課題として、権利擁護（社会的排除）、当事者活動（ピアサポート、自助グループなど）危機介入、薬物・アルコール依存等を取り上げ、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント、ネットワーキングなどの手法を用いた具体的な支援方法について学ぶ。	講義　26時間 演習　4時間
	発展科目Ⅱ（医療福祉教育群）	医療ソーシャルワーク論	保健医療サービスにおいて、生活相談を行う社会福祉士と規定されている医療ソーシャルワーカーが、利用者の生活の質の向上に貢献できるように、保健医療の専門職やその他関係者・機関とチームを組み、多職種・多機関連携を行っていくことについて学ぶ。保健医療サービスを提供する他の専門職の役割を確認し、それを補完・連携するために必要なソーシャルワーカーの基本的姿勢や視点を理解する。保健医療ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解するために、歴史、制度的背景、実践課題を理解するとともに、専門職としての倫理観と行動基準に基づく具体的な支援のあり方について、事例を通して学ぶ。医療ソーシャルワークの理念と今日的課題・意義を検証するとともに、学生の自己覚知・適性の自己理解を促す一助とする。	
		医療支援ネットワーク論	現代の医療においては、医学的な視点に加えて心理社会的な側面にも配慮した患者サービスが求められており、多職種の連携・協働は必要不可欠な状況となっている。本講義では、保健医療サービスにおける専門職の連携と実践について、多職種連携の基礎知識を理解するとともに、チーム医療において福祉の専門職が求められる知識や技術を学ぶ、多職種連携場面を想定した事例の検証や保健医療分野における多職種連携場面を想定した模擬カンファレンスを通して、各職種の理解とともに、他職種との連携場面において求められるより実践的な知識と技術の習得を目指す。	講義　14時間 演習　2時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅱ（医療福祉教育群）	認知症ケア論Ⅱ	わが国の高齢者における認知症有病率は、65～74歳の高齢者では3～4%、75～85歳では10～20%、85歳以上では、40～80%に及ぶとされている。このことから、2025年には670万人、2060年には860万人が認知症となり、2060年の時には認知症の人の70%は85歳以上となるであろうと推測されている。つまり、我が国において、超高齢社会を生きる人の大半が認知症であることになる。このことは、社会福祉に携わるであろうすべての人に、認知症に関する知識が不可欠であると言える。そこで、本講義では、認知症の病理学的な知識、診断のための検査、認知機能の評価尺度、認知症の種類とその特徴、ＢＰＳＤ（認知症の行動、心理症状）の原因とその要因、生活影響などについて学修する。さらに、治療や予防についても理解し、早期発見、認知症の人が安心して暮らせる社会づくりについても学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （67　繁田雅弘／10回） 認知症の医学的特徴、認知症の人の心理的特徴、認知症の行動・心理症状とその医療的ケア、認知症との「共生」と健康増進策 （35　唐澤千登勢／5回） 認知症のチームケアと担い手、認知症の当事者にやさしい地域づくり	オムニバス方式
		ターミナルケア論	終末期に関する考え方を、本人、家族、専門職といった立場から、これまでの文献を活用しながら、専門職としての自分の立場を考察し理解を深める。また、医療や看護職の実践、ターミナル期の観察、具体的なケア、家族への心の支援等の在り方、さらに、看取り後の家族や親族、友人をはじめ、病院や施設においてターミナルケアを行った専門職等への支援、相互の心のサポートの在り方について考察し、理解する。 　ターミナル期の保健・医療・福祉においては、その方たちの意思の把握とともに、自己決定支援の課題が多い。それらの課題についても学習する。	
		精神保健学Ⅰ	「精神保健学とは？」という問からはじめるこの講義では精神保健の定義（広義・狭義）を探索しながら精神面での保健を幅広い視点から捉え、人々の心身の健康をいかに維持し、増進していくかを考える。具体的には、ライフサイクルに伴う精神保健の課題、生活する上でのストレスと精神の健康、予防の考え方（カプランの考え方）について取り上げ、理解を深める。特に自分自身の精神の健康について考えることで、精神保健、精神の健康とは何かを理解し、精神保健における精神保健福祉士の役割についての学びを深める。	
		精神保健学Ⅱ	現代の日本における精神保健に関する様々な個別課題（DV、児童虐待、社会的ひきこもり、いじめなど）への取り組みや地域における精神保健福祉活動の実践に関する知識を深め、精神保健福祉士の活動内容を理解することを目的とする。また、精神保健に係る専門職（保健師等）や行政機関の役割について知り、地域で精神保健福祉活動における他職種・他機関との連携について学ぶ。最後に世界の精神保健の実情やWHOの活動、先進的な精神保健医療について知識を広める。	
		精神保健福祉論Ⅰ	現代の日本で精神障害者が置かれている現状を理解するために、精神保健福祉法成立までの経緯（日本の精神保健福祉の歴史）と意義について学ぶ。また、精神保健福祉法の目的や具体的内容を学び、精神保健福祉法で期待される精神保健福祉士の役割について考える。さらに障害者基本法、障害者総合支援法を学び、日本の精神障害者施策について理解を深める。最後に入院偏重や多剤多量問題等を抱える日本の精神医療の現状に対して、精神科病院を廃止したイタリアについて学び、日本の精神保健福祉の現状と課題について考える。	講義　24時間 演習　6時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅱ（医療福祉教育群）	精神保健福祉論Ⅱ	精神障害者に対する福祉制度の概要と福祉サービスについて学ぶ。特に精神障害者を支援する上で重要となる社会保障制度として医療保険制度、介護保険制度、経済的支援に関する諸制度（生活保護、障害年金、障害者に係る各種手当、税金控除など）について理解する。また、精神保健福祉相談援助に係る組織、団体、関係機関・施設、そこで働く専門職の役割について知り、インフォーマルな社会資源（セルフヘルプグループ、ピアサポーターなど）や地域住民との協働について考え、理解を深める。さらに更生保護制度と精神障害者福祉との関係についての学びを踏まえ、精神疾患によって他害等の重大な犯罪行為をおこなった精神障害者に対する法律である医療観察法と社会復帰調整官の役割について学び、理解を深める。	講義　23時間 演習　7時間
		カウンセリング	実際の福祉現場におけるカウンセリング実践という視点に立ち、福祉活動を見つめ直すことができるよう、以下の内容の修得を目指す。カウンセリングの歴史と変遷をたどり、代表的技法の基本的な問題のとらえ方と援助方法を理解する。また、福祉現場に必要なカウンセリングの理論と実践における認識・理解を深める。さらに、カウンセリングの意義と課題について認識・理解するとともに、福祉現場におけるカウセリングの実践のあり方を理解し、カウンセリングの方法を身につける。加えて、演習を通して、チーム援助や他職種と連携する力量を身につける。そして、自らのカウンセリング観を内省し、実践力を高める。	
	発展科目Ⅲ（生活環境教育群）	社会環境ケア論	居住空間、公共空間、交通施設等幅広く社会環境を取り上げ、身近な事例や先進的事例をもとにケアの視点からその課題等を明らかにし社会環境の提案ができるような技術を身に着ける。社会全体の環境のあり方の中で、各空間のあり方を事例を通して学ぶ。良い社会環境は住み慣れた地域で済み続けるための重要な条件であり、建築や住宅、都市計画の分野に対してもケアを学ぶ者が対等に議論、提案ができる考え方を修得する。持続可能な社会の市民として必須課題である地球環境問題を総合的に俯瞰した後、各論として地球温暖化・大気汚染と酸性化・ゴミ問題・エネルギー問題などを取り上げ、その学習の中で人と人との関わり、ケアの視点を重視して展開する。 （オムニバス方式／全15回） （4　狩野　徹／10回） 居住空間、公共空間、交通施設等幅広く社会環境を取り上げ、身近な事例や先進的事例をもとにケアの視点からその課題等を明らかにし社会環境の提案ができるような技術を身につける。 （81　桜井　達雄／5回） 持続可能な社会の市民として必須素養である地球環境について科学的に捉える力の習得を目指す。導入として地球環境総論、各論として地球温暖化・大気汚染と酸性化・ゴミ問題・エネルギー問題などを取り上げ、それぞれヒューマン・ケアの視点を加味して実習・演習的に展開する。	オムニバス方式
		住環境ケア論	机上での話に終始せず、実際のケアや生活場面の使われ方を見て、ケアの視点で住環境とは何かという問題を共に考えながら授業をすすめる。環境面だけでなくソフト面の福祉サービス等と関連づけて実際の住環境整備のプロセスを学ぶ。また、建築図面などから実際の設備や機器をどのようにデザインすれば最も有効であるか検討する技術を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅲ（生活環境教育群）	ケア環境デザイン学	「ケア環境デザイン学」は、より良いヒューマンケアの実現に向けて必要となる環境的な要素を、「デザイン」という観点から捉え直すための基礎的なデザイン知識について学ぶことを目的とする。科学技術と工業化の進展にともない発展してきた人工物のデザインは、生活のさまざまな場面において重要な役割を果たしてきた。しかしながら個々の人工物をデザインするだけでは解決できない問題も少なくない。そして、機能や性能を追い求めるデザインの世界は、あらゆる事物や環境を創造してきたが、21世紀のデザイン世界はそれらを前提としながらも、人工物の意味や価値創造をより考慮せねばならなくなってきている。 この授業では、人間らしく生きたいとする願望に応えるためのヒューマンケアを、人工物の側から問い直す尺度としてのデザインについて考えていく。 （オムニバス方式／全15回） （68　佐藤徹／８回） 『人の行為とモノのデザイン』 ケアを目的とした環境のみならず、私たちの生活を支える環境には多くのモノが存在する。そして、環境をより適切に整えていく試みには、モノがどのような事柄に重きをおいて計画（＝デザイン）されてきたのかを知ることが必要となる。前半のパートは、医療機器デザインの推移をとおしてデザインから見た現場の変化や今後留意すべき点を探ることを主軸としながら、人の行為とモノのデザインについての知識を学び考察していく。 （69　中林鉄太郎／７回） 『ケア環境と関係のデザイン』 ケアを目的とした環境のデザインにおいては、見えていない要素についても注意を配りながらデザインしていくことが求められる。価値観、感情、情報、技術、文化など、デザインを考えるということはこれらの要素間にある関係性を最適化していくための方向性を見出していく行為となる。後半のパートは、デザインしていく対象を広く俯瞰し、ケア環境全体に関わる人とモノ、モノと環境のデザインについての知識を学び考察していく。	オムニバス方式
		生活支援デザイン学	生活を送る上でデザインによる不自由を感じることがある。できないことをできるようにするためには専門的な技術が必要になるが、多少の不自由があることを楽に楽しくできるようにすることはそれほど難しいことではない。環境や道具などのデザインによる生活支援のノウハウを生活場面ごとに整理し、デザインのこつを学ぶ。	講義　26時間 演習　4時間
		福祉テクノロジー	福祉機器の利用・開発や生活環境整備をする上での問題点を考えながら福祉工学を取り巻く周辺分野と共に基礎的な関連知識を深めるものである。人にやさしい福祉機器・生活環境とは何かという視点で授業をすすめる。福祉機器をはじめ健康や介護に関係する機器を、提供側と使用側両方からのアプローチのミスマッチを含め、考察を行う。	
		ケアのコミュニティ学	今日、ケアは地域住民の助け合いや互助活動を巻き込んだ、大きな社会課題としてわれわれに突きつけられている。そこで、本講義では、ケアが地域住民の中で、どのような形、姿をとって存在し機能しているかを、具体的な事例などを通して理解を深める。さらに、そのようなケアの機能が、社会的機能としてのソーシャルケアとどのような関連性を有しているか考察を深め、多様なケアがコミュニティの中で、どのように発展していくのかについて考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅲ（生活環境教育群）	地域福祉論Ⅱ	現代の福祉問題（新しいリスク）の多くは地域コミュニティにおいて総合的に解決する方法が求められている。本講義では、これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって、地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶ。具体的には、地域福祉の諸理論、政策と実践、コミュニティソーシャルワーク等の援助技術、事例研究法に基づいて、地域包括ケアシステムの開発事例、各地のコミュニティ資源を生かした地域創生の実践事例を紹介し、研究する。また、本講は、地域福祉の初学者にも分かりやすいものを提供したいという願いから「図説　地域福祉ゼミナール」をめざし、地域福祉論の一般的、基礎的事項を開設できる講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （2　野口　定久／9回） これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって地域マネジメントの理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶ。 （13　長谷川　武史／6回） 地域福祉の主体形成とコミュニティソーシャルワーク、住民福祉活動の進め方、ボランティア活動等の実態把握、地域福祉教育と産学協働のあり方、地域福祉計画と地域福祉活動計画、地域福祉計画と住民参加	オムニバス方式
		健康まちづくり論	障害者や高齢者等が安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できるバリアフリーのまちづくりに向けた取り組みを行う自治体の将来計画から、まちづくりを考える。続いて、東日本大震災後10年余を迎え、被災地では住まいとまちの復興が着実に進んでいる。一方では、被災者の生きがいづくりのための「心の復興」、新たなコミュニティ形成等、細やかな対応・支援が継続される。そのような状況下で、復興のまちづくりとしての成果がみられる地域を事例として取り上げ、現地での人的交流を通した復興のまちづくりを学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （17　渡邊　圭／7回） 震災からの復興期におけるまちづくりについて、その意義とそのための関連法制度の基礎知識について学び、東日本大震災における被災3県での復興まちづくりに関する事例検討を通じて、復興まちづくりにおける具体的な支援方法のあり方について学ぶ。復興まちづくりを通しコミュニティ形成の意義について学ぶ。 （⑤　安井幸次／8回） 現在の地域社会の特徴や置かれた状況について理解し、様々な角度からまちづくりの手法と成果について学ぶ。 それを通して、今後の地域社会のあり方がどうあるべきかを考え、理解する。	オムニバス方式
	発展科目Ⅳ（マネジメント教育群）	福祉公共政策論	社会福祉・社会保障の制度や政策は、どのようなアクターが関わり、どのようなプロセスを経て今ある形になっているのかということついて、政治システムへの入力から再入力までの一連のサイクルを細分化して学ぶ。具体的には、課題設定・政策立案・政策決定・政策実施・政策評価・政策転換の過程に分けて学ぶ。それにより、一つの事がらが決定・実施に至るまでの仕組みを理解し、改善を目指そうとする時にはどのようなアプローチを取りうるか考えるきっかけとする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅳ（マネジメント教育群）	ケア財源・負担論	日本の社会保障給付費の総額は110兆円に達し、国家財政の規模を上回るまでになっている。その背景には人口の高齢化の急速な進行があり、年金給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費が増え続けているという事情がある。これ以上社会保障給付を拡充するには、財源難という壁が立ちはだかっている。しかし、社会保障の受け手である高齢者・障がい者等の生活の視点から見ると、困窮している人は依然として多い。社会保障給付のあり方と負担のあり方を検討する必要がある。また、消費税が現実に果たしている役割や今後の税収のあり方を考える。	
		自治体福祉論	わが国では、少子高齢化が進展し、国民のニーズの高まりと多様化の中、都道府県から市町村への権限委譲、社会福祉基礎構造改革、各種福祉計画の策定、介護保険制度の創設、各種福祉サービスの措置から契約への移行、地方分権の推進などが進められ、福祉政策主体及び福祉サービス提供主体としての地方自治体、特に、市町村の福祉行政の役割は大きく変化し、重要となっている。本授業では、市町村を中心に、地方福祉行政の基本的事項を理解し、市町村の福祉行政の実際を多面的に学ぶ。さらには、新たな福祉政策の展開の方策、住民参加による福祉のまちづくりについて考えていく。特に地方自治体の首長や職員をゲスト講師として招き、自治体福祉の実際を学ぶ機会を設ける。	
		病院・施設管理論	わが国には、8千以上の病院があり、10万を超える一般診療所があり、歯科診療所も6万を超える。また、介護保険が適応される施設・事業所は20万か所程度ある。さらに、保育所をはじめとする児童福祉施設や障がい福祉関係の施設や事業所がある。これらの病院・施設はそれぞれの目的があり、制度によって規定され、その運営は租税や保険料等の公的支出で賄われている。そのため、公平で公正なマネジメントが行われる必要がある。そこで、病院や施設のヒト・モノ・カネ・情報のマネジメントに焦点をあて、その現状と課題を明らかにするとともに、それぞれの場で働く人々の側から見た総合的な仕組みを理解する。	
		経営学	今日、利益だけを追い求める企業・組織よりも、顧客満足、従業員満足、そして社会的責任の意識明確にもち、幸福追求を目的とする経営が、顧客や社会によって高く評価・支持され発展していくと思われる。本講義では、「社会福祉と経営の関係」をテーマとして考察をすすめます。具体的には、福祉各分野の事例や演習、コミュニティビジネスなどの事例検討を踏まえ、次にそれらの関連で、経営学（マネジメント）の基礎理論を学び、また「福祉サービス」についても言及し、福祉分野における経営についての基礎的な理解を深める。	
		地域・ プレメディカル産業論	ケアの基盤となる地域産業の考え方、とりわけ産業基盤の弱い地域における産業連関の視点から地域産業の実態について学ぶ。具体的には、①産業の構成からみた長野県およびブロック（とりわけ東信・佐久）の特徴②地域産業と住民の暮らし③地域産業政策④医療、保健・健康、福祉関連産業（プレメディカル産業）の動向の4つの視点から学びを深め、ケアのニーズが産業や企業の持つニーズと結びつく可能性について理解を深める。	
		非営利組織論	NPO は地域社会のニーズに応える社会サービスの担い手として、社会的課題の解決と自ら掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されている。しかし、現状は「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに問題を抱えているNPO は多い。本講義ではNPO 活動を発展させるために重要なマネジメントの向上について様々な問題や課題を考察し,実際の運営事例を中心にNPOの政策（制度、法律）と実践（マネジメント手法、実践技術）に対するスキルについて考究する。	
		ソーシャル・ビジネス論	ソーシャル・ビジネスは、社会問題の解決、地域再生といった社会的ミッションをビジネス活動を通して達成する手法である。近年、経済学や福祉学などのさまざまな分野で、ソーシャルビジネスの機能と可能性について注目されている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの概念とその有効性について、国際的動向などを踏まえて概説し、国内外の多様な活動事例（社会起業、NPO法人、協同組合など）を通して、そのマネジメントや実践技術などを習得する。	講義　22時間 演習　8時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目Ⅳ（マネジメント教育群）	マーケティング論	市場行動であるマーケティングは、今日様々な事業体において展開を示している。言うまでもなく、その代表的なものは、企業のマーケティングである。企業マーケティングは単に商品やサービスを売るというだけではなく様々な要素が複雑に関係している。我々は、年間を通してマーケティングの「基礎」を学び、また、様々な「展開」について検討、学修することにより、マーケティングの知識を獲得し、またマーケティングの素養を身につけるべく検討、学習する。	
	展開科目	社会福祉原論	「社会福祉論」で概観した社会福祉に関する基本的理解を前提に、学部の専門科目、社会福祉の各分野の講義等で学んだ社会福祉問題とそれらに対する対応方法、実習で得た経験的事実などについて、理論的に検討し、社会福祉の専門課程の学習の総合化を図る。基本的な講義内容の形式的分割を行わずに「社会福祉論」の補足、詳説、新動向の解説、研究的視点への方向づけなどに重点をおく。そのなかで、社会福祉の理念・価値に関して実践と理論の両面から吟味し、福祉への卒業後のかかわりについて考えを深めることを目指す。	
		地域包括ケア論	日本における地域包括ケアシステムの理念、背景、動向、歴史および諸外国におけるコミュニティケアの理念や政策について理解をする。地域医療の先進地域である佐久地域における地域包括ケアシステムの事例を通して、人々の健康の保持増進、疾病の予防、療養、病気からの回復、在宅での看取り、誕生と成長を支援するために、多職種や住民と連携・協働して住民の健康と生活を支えるケアマネジメントおよび地域の課題解決に向けた取り組みについて学び、住民の自助と互助を基盤とした地域共生社会の実現に向けた看護・保健・福祉の専門職の役割を考える。	講義　6時間 演習　10時間
		災害福祉論	災害はそれが生じることによって、当該地域の住民の生活基盤・生産基盤の破壊・崩壊をもたらすことに加え、その後の復興に向かう過程においても様々な影響もたらすものである。この災害による被害に対して、災害支援における「災害サイクルモデル」に基づき、社会福祉の領域から災害時における対象者の生活再建の視点と方法について国内外の事例をもとに学び、社会福祉からの災害支援のあり方についても学ぶ。	
		ケア労働・職業論	「仕上げ」の４年次学生を対象にすることから、これまでの学びを踏まえ、あらためてケア関連専門職労働の意味を考える位置づけの講義となる。とくに、既存の「専門職批判論」も意識しつつ、関連するケア専門職（社会福祉士や介護福祉士あるいは看護師など）の役割と課題を議論していく。具体的には、ケアが制度化され、その労働が資格化される中での「ケア労働」のありようの変化、および専門職であるがゆえに持つ独自的な諸課題を明らかにし、ケアの利用者側の視点に立った専門職を目指すための、基本的視点を確認することに重点が置かれる。	
		ヒューマンケア専門演習Ⅰ	この専門演習は、受講生が、主体的かつ総合的な学びを深め、四年間の学修の総仕上げとしての卒業課題研究につながっていくためのものである。演習Ⅰでは、ヒューマンケアの研究に必要な基礎知識・技術を習得し、基礎的な学術経験を積むことを目的とする。文献購読、討論等をクラスごとに設定し、演習形式で専門研究への準備能力を養う。クラスの編成をし、担当教員に割り当てる。	
		ヒューマンケア専門演習Ⅱ	本演習は、ヒューマンケア専門演習Ⅰでの学修を土台に、受講者一人一人がゼミ単位で論議を深めながら、個別の関心と動機に基づいてテーマを決めて研究を深め、卒業課題研究につなげる。ディベートやグループ中でのプレゼンテーションの他、個人毎のリポート作成などを行い研究力を養う。ゼミは受講生が自らの関心と研究テーマに基づいて選ぶ。	
		CBL総合演習・実習	3年次の後半からの、出口を意識した学修の総合化、統合化と卒業課題研究遂行に向けて必要なフィールド、臨床現場での量的・質的調査データ、実践記録、観察記録・データなどを、受講者の自主的な選択で行うものである。それゆえ、「実習」の形態や内容、場所、期間などや、その準備等も、担当教員の指導の下で、受講者が柔軟に企画することができる。実習によって得られたデータ等は、指導教員の検証・指導を受けながら、研究等に活用できるものに仕上げていくこととする。	演習　８時間 実習　22時間

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開科目	卒業課題研究	大学における学習の集大成として、個人ごとにテーマを定めた研究を、１年間を通して遂行する。基本的には、学生が、自分の研究テーに沿って指導教員を選んで、研究計画を立てて、個別指導を受けながらすすめる。必要に応じ、CBL総合演習・実習を並行履修する。	
専門科目	自由科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この科目では、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげ、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定して、アウトリーチ、チームアプローチ 、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発の実技指導（ロールプレーイング等）を、個別指導並びに集団指導を通して行う。ソーシャルワーク実習後には、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における生徒の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	ソーシャルワーク実習が行われる実習機関やその利用者についての理解を深め、ソーシャルワーク実習の意義、ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義について理解する。現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）と個別指導及び集団指導により、実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解を進める。	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解を深め、実習に向けての自分自身のねらいや目的を明確にし、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成する。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解を深める。巡回指導もしくは帰校日指導により、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	個別指導及び集団指導により、ソーシャルワーク実習を振り返り、分かち合い、学び合う。実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成、実習報告会を行うことを通して、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、解の見えない課題であっても真摯に向きあい主体的に学ぶ態度と能力を高める。	
		ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。実習生は実習機関の実習指導者による指導を受けるが、ソーシャルワーク実習指導担当教員が巡回指導等を通して、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。具体的な体験と実習機関の実習指導者及びソーシャルワーク実習指導担当教員による指導を通して、実習生は社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間福祉学部人間福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自由科目	精神医学Ⅱ	本講義は精神医学Ⅰのアドバンスト・コースとして、精神医学Ⅰで学ばなかった器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動の障害等の理解を深めるとともに、精神科の治療法（薬物療法、身体療法、精神療法）、リハビリテーションなど臨床で行われていることを学ぶ。また、疾病構造の変化に伴う外来医療、在宅医療、入院医療の現状を統計的データと共に学ぶ。最後に、精神医療と福祉の連携の重要性について考える。精神医学Ⅱでは、精神科に関連した時事問題も取り扱う予定としている。	
		精神保健福祉論Ⅲ	「障害の福祉学」で学ぶ障害の概念や国際生活機能分類（ICF）を踏まえて、疾病と傷害を併せ持つ精神障害者の特性を学ぶ。また、精神障害者の生活実態とニーズを知り、精神障害者の住むところと働くことへの支援（制度やサービス、そこに係る専門職など）について学び、具体的な支援について理解を深める。以上のことを踏まえ、精神障害者が地域で生活する上での人権の問題や精神障害者の自立と社会参加、それらを促進する地域生活支援システムのあり方と課題について考える。	講義　24時間 演習　6時間
		精神保健 ソーシャルワーク演習Ⅰ	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての専門的援助技術およびリハビリテーション技法の基本的な知識・理論を把握し、事例を基に総合的かつ包括的な相談援助、医療と福祉の協働と連携について考え理解を深める。特に精神障害者を支援する上で重要な課題として、権利擁護（社会的排除）、当事者活動（ピアサポート、自助グループなど）危機介入、薬物・アルコール依存等を取り上げ、グループワーク、アウトリーチ、ケアマネジメント、ネットワーキングなどの手法を用いた具体的な支援方法について学ぶ。	
		精神保健 ソーシャルワーク演習Ⅱ	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての専門的援助技術およびリハビリテーション技法の基本的な知識・理論を把握した上で、具体的な事例に即してそれを実施できるようになることが目的である。 精神保健ソーシャルワーク実習での体験をもとにして、グループで事例を作成し、面接・グループワーク・SST・心理教育などの実技指導（ロールプレイ等）を行う。	
		精神保健 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	精神保健ソーシャルワーク実習と実習指導における個別指導と集団指導の意義について理解する。精神障害者の生活のしづらさ（心情、生活の実態、生活上の困難）や、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理などについて、機関・施設見学や当事者や現場の専門職から直接話を聴くことによって学ぶ。また実習指導Ⅰでは実際に実習に行くための準備として、実習を行う機関・施設の根拠法、概要及びその施設がある地域の特徴等を調べ、理解した上で、どのような実習を行うかについての実習計画を作成する。実習中は担当教員の巡回訪問指導や帰校日指導を通して、実習のスーパービジョンを受け学びを深める。	
		精神保健 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	精神保健ソーシャルワーク実習（配属実習）のための中間・事後学修として、小グループに分かれて、実習の振り返りと、新たに生まれた課題について整理し、実習報告書にまとめる。精神保健ソーシャルワーク実習は、精神保健福祉士として必要な資質・能力・技術を総合的に身につけるとともに、それらを理論化し実践活動に応用できるようになることを目標とする。そのための中間・事後学習として、学生は実習課題の作成、実習の振り返り、新たに生じた課題の整理と展開、実習報告書の作成、実習報告会での発表などを行うことで、実習の成果を確実なものとする。	
		精神保健 ソーシャルワーク実習	精神保健福祉領域のソーシャルワーカー（精神保健福祉士）としての価値や態度、必要な知識、援助技術等について、実習の体験を通して具体的かつ実践的に学ぶ。精神科病院等の医療機関では、そこで行われている患者への個別支援（入・退院の支援、家族支援、チームアプローチ）やグループワーク（SSTなど）について学ぶ。さらに地域の障害福祉サービス事業等では、地域における機関・施設の役割、提供するサービス、精神障害者が地域生活を送るために必要な具体的な支援について理解する。	

学校法人佐久学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
佐久大学				佐久大学				
看護学部				看護学部				
看護学科	90	－	360	看護学科	90	－	360	
				人間福祉学部		3年次		
				人間福祉学科	70	10	300	学部の設置（認可申請）
計	90	－	360	計	160	3年次 10	660	
佐久大学大学院				佐久大学大学院				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻（M）	10	－	20	看護学専攻（M）	10	－	20	
計	10	－	20	計	10	－	20	
佐久大学信州短期大学部				佐久大学信州短期大学部				
福祉学科	50	－	100	福祉学科				
				介護福祉専攻	25	－	50	学科の専攻課程の設置（届出）
				子ども福祉専攻	25	－	50	学科の専攻課程の設置（届出）
計	50	－	100	計	50	－	100	